

新カリキュラム シラバス



郡山看護専門学校 看護学科
令和7年度 13回生（1年次）
12回生（2年次）

基礎分野

基礎分野は、当校の建学の精神である「人の和」や看護職に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、倫理観等を養うことを目的に科目を設定した。対象の喜びや苦痛・不安など様々な心理を理解する感性と思いやりや慈しみの心を養うために「看護心理学」「生命倫理」「家族関係論」を学ぶ。そして思考力、問題解決能力を養うために「ロジカルシンキング」「看護情報科学」を学び、専門職として質の高い看護を実践するために必要な知識を学び続けられるよう「生涯教育論」を学ぶ。実践する力となる体力、コミュニケーション力を養うため「看護英会話」「運動と健康」を設定した。また、命を見つめる、人の心を見つめる、そして自分自身を見つめる目的で座禅や写経などを経験し、自己自立の基盤を育成する。

分野		学科目名	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	ロジカルシンキング	1	15
		生涯教育論	1	15
		看護情報科学	1	30
		看護心理学	1	15
	人間と生活・社会の理解	生命倫理	1	20
		人間関係論	1	30
		運動と健康	1	15
		看護英会話	1	15
		基礎分野合計	8	155

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
ロジカルシンキング		15	1	1 年次	佐藤 肇
＜学習目標＞					実務経験：
1．体系的に物事を整理し、筋道をたてて考えることができる。 2．クリティカルシンキングを活用し、意識的に自分の考えを批判的に見る力を養う。 3．看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション力（聴く力、伝える力）を養う。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	イントロダクション（テキスト・心得） 論理的に考えるコツ	講義		
2	4	演繹法・帰納法・弁証法について	講義		
3	6	アブダクション 論理的思考、批判的思考	講義		
4	8	オーラルプレゼンテーション 「考えることは力になる」	講義		
5	10	2×2マトリックス 2軸思考	講義	課題	
6	12	ブレインストーミング 「理想の病院」（患者の理想・家族の理想・医療者の理想）	演習		
7	14	総復習	講義		
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24	「ロジカルシンキング」では、自分の考えを直感的・感覚的に捉えるのではなく筋道をたてて考えることを身に着ける。また、相手の考えをバイアスに捕らわれず聞くことができ、物事を分解し、整理して考えられる基礎を学ぶ。そうすることで、根拠を基に物事を考えることができ、自分の考えを相手に伝えることができるようになることを願う。さらに、科学的根拠に基づいた看護を実践するには、ロジカルシンキングは重要と考える。			
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
考えることは力になる：岩田健太郎					
＜評価方法＞					
ワークシート レポート 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
生涯教育論		15	1	1 年次	中西 由美
<学習目標> 1. 人として、医療の担い手として成長するための教育の意義を理解することができる。 2. 生涯にわたって学び続ける必要性を理解することができる。 <授業計画>					実務経験：看護師として 病院での勤務経験あり
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	生涯教育とは 生涯学習とは 看護学校の理念を読み解く・マンダラチャート	講義	PP	
2	4	教育の二大要素 教授と訓育 ひとを教える学ぶということ（奇跡の人）	講義	PP	
3	6	訓育－他者とのかかわりを導くこと・技法・ねらい グループエンカウンター	講義・GW	PP	
4	8	訓育－関わり合うことの困難 いじめ・自死・ゲートキーパー	講義・GW	PP	
5	10	障害・看護・教育へのかかわり 院内学級とは インクルーシヴ教育 特別ニーズ教育とは	講義	PP	
6	12	生涯学習とは その必要性 リカレント教育 リスキング	講義	PP	
7	14	生涯教育論の復習 生涯教育の一端紹介	講義	PP	
8	16				
9	18	教えるを乞うことの大切さ、教えることでそれをつなげることの 重要性を学んでほしい			
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
なし					
<評価方法>					
終講試験 講義への出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護情報科学		30	1	1 年次	斎藤 正一
<学習目標> 1. 情報を扱ううえでの善悪の判断基準を理解し、情報を適切に扱うためのルールを守ることができる。 2. 様々なデータベースを正しく使用し、看護の実践や研究に活用できる。 3. PCを活用したより効果的なプレゼンテーション技術を身に着けることができる。					実務経験：病院で診療放射線技師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	情報と情報科学	情報の意義と特徴 情報化社会	講義	PP
2	4	保健医療と情報	医療情報の種類、医療におけるコミュニケーション、医療情報システム、医療情報の利用と倫理、エビデンス情報に基づいた保健医療、ヘルスプロモーションと情報	講義	PP
3	6	看護と情報	看護におけるデータ、情報・知識、ヘルスリテラシー向上の支援、情報科学社会と看護、情報処理学会倫理綱領	講義	PP
4	8	医療における情報システム	医療における情報の記録、看護過程の構成、看護記録、カルテについて、病院情報システムと記録	講義	PP
5	10	情報倫理と医療倫理 患者の権利と情報	知的財産権、プライバシー権、医療倫理の4つの原則・倫理綱領 患者の権利（リスボン宣言、インフォームドコンセント）	講義	PP
6	12			講義	PP
7	14	個人情報の保護 コンピューターリテラシーとセキュリティ	法律、情報の利用の仕方、看護情報システム 情報リテラシー、インターネットの仕組み	講義	PP
8	16	情報処理	インターネットを使った、貼り付けの練習 作成した文章の保存の仕方	演習	
9	18	既存の情報の収集方法	グループワークでの課題についての説明 キーワード検索	演習	
10	20	調査によるデータ収集方法	Wordでの課題（保健、医療、介護、福祉）の資料作成	演習	
11	22	Excelによる統計解析	Excelデータ処理 （% 平均 標準 偏差値とは）	演習	
12	24	文字情報の整理	Wordでの課題（保健、医療、介護、福祉）の資料作成 個人ワーク、グループワーク	演習	
13	26	情報の発表とコミュニケーション	課題（保健、医療、介護、福祉）をパワーポイントを使ってまとめる グループワーク	演習	
14	28	グループ発表	課題をグループごとにパワーポイントで発表	グループ発表	
15	30	グループ発表	課題をグループごとにパワーポイントで発表 授業の復習	グループ発表	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
別巻 看護情報学 医学書院					
<評価方法>					
筆記試験 60%、演習レポート40%					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護心理学		15	1	1 年次	佐藤 明宏
<学習目標> 1. 人間の行動と心理的状态を理解することに関わる心理学の基礎概念を学ぶことができる。 2. 看護の臨床の場に出会う人々の心の在り方を洞察する力を養うことができる。 3. 自己の心のあり方をみつめ、自己自律につなげることができる。 <授業計画>					実務経験：
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	オリエンテーション、看護に活かす心理学、認知からの人間理解		講義	PP資料、テキスト
2	4	行動からの人間理解	欲求、動機づけ理論、適応、学習理論	講義	PP資料、テキスト
3	6	発達からの人間理解	発達段階と発達課題、認知、愛着の発達	講義	PP資料、テキスト
4	8	人格からの人間理解	パーソナリティ理論、パーソナリティ障害	講義	PP資料、テキスト
5	10	アセスメントと心理療法 心理アセスメント 心理検査テストバッテリー		講義、演習	心理テスト
6	12	人間関係からの人間理解 対人認知、帰属、対人魅力、ストレスと適応		講義、演習	PP資料、テキスト
7	14	難病、虐待、DVの心理支援 緩和ケア、ターミナルケア	難病、虐待、DV、終末期医療の理解	講義	PP資料、テキスト
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
新体系看護学全集 基礎分野 心理学 メヂカルフレンド					
<評価方法>					
終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
生命倫理		20	1	1 年次	大童法慧 他 多々良さつき
<学習目標> 1. 生命（いのち）とは何かを考えることができる。 2. 生命倫理の歴史的背景・原則を知り、人間の尊厳と人権の尊重について考えることができる。 3. 自己の死生観を持つことができる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	生命倫理とは	生命とは何か 死の心理学 課題図書の要約と感想発表（ジグソー法）	講義	
2	4	それぞれの宗教における生と死	仏教における「いのち」とは「生、死」とは 自分自身の「生」と向き合う	講話	徳成寺 住職 大童 法慧
3	6			座禅/写経 体験	
4	8		キリスト教における「いのち」とは 「生、死」とは	講話	未定
5	10	超高齢社会を考える	超高齢社会の高齢者のQOLを考える 超高齢社会を支える人たちについて考える	映画視聴	*シネメディケーション
6	12		映画「PLAN75」 視聴		
7	14		*視聴して考えたことをレポートにまとめる。		課題レポート (1500字以上)
8	16	生命のおわりをめぐる 倫理問題	安楽死・尊厳死、平穏死を考える 日本における安楽死の現状 日本における「自己決定権」のあり方 ①NHKスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」 ②「安楽死は彼女にとって本当によかったのか？」（プリント） ③「私のママが決めたこと」 ④レポート課題「自分の死生観」	DVD視聴	
9	18			グループ ディベート	
10	20				課題レポート (1000字以上)
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> 1. 語句の意味を調べる。（安楽死・尊厳死・リビングウィル アドバンスディレクティブ ACP） 2. 「死の権利」「死のあり方」について、日本の現状と正解の現状を調べる。					
<テキスト等の準備物品>					
<評価方法>					
事前学習（20点） 課題レポート（25点×2） 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
人間関係論		30	1	1 年次	山下 和彦
＜学習目標＞ 1. 自己と他者を理解し、人間関係をつくるための理論や技法を学ぶことができる。 2. 看護における人間関係構築の重要性を理解することができる。 3. 現代社会の家族の特徴と多様性を理解し、様々な状況における家族への看護を考えることができる。					実務経験：
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	人間関係の中の自己と他者	演習	資料	
2	4	人間関係におけるストレスとストレスコーピング	講義・演習	資料	
3	6	カウンセリングと心理療法	講義	資料	
4	8	傾聴の基礎	講義・演習	資料	
5	10	傾聴の応用①	講義・演習	資料	
6	12	傾聴の応用②	演習	資料	
7	14	認知行動療法の基礎	講義	資料	
8	16	認知行動療法の演習	演習	資料	
9	18	アサーティブ・コミュニケーション①	講義・演習	資料	
10	20	アサーティブ・コミュニケーション②	演習	資料	
11	22	動機づけ面接の基礎	講義・演習	資料	
12	24	動機づけ面接の演習	演習	資料	
13	26	家族を含めた人間関係（家族システム）	講義・演習	資料	
14	28	家族を含めた人間関係（遺族の心理とケア）	講義	資料	
15	30	看護師間の相互作用の演習（タッピングタッチ）	演習	資料	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
基礎分野 人間関係論 ： 医学書院 他その都度紹介する					
＜評価方法＞ 感想・質問用紙をもって出欠確認					
出席状況 終講試験 演習参加態度					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
運動と健康		16	1	1 年次	佐久間 貞典
＜学習目標＞				実務経験：病院で健康運動指導士として勤務経験あり	
1. 健康の保持増進のための運動の知識と基礎的な実践能力を養うことができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	オリエンテーション	講義	PP	
2	4	ボディーメイキングエクササイズ（レジスタンス）	講義・演習	PP/ヨガマット アシスタントあり	
3	6	ボディーメイキングエクササイズ（ダンス）	講義・演習	PP/ヨガマット	
4	8	ボディーメンテナンス（ストレッチング・マッサージ）	講義・演習	PP/ヨガマット	
5	10	身体評価（InBody測定）	講義・演習	PP/測定器	
6	12	自律神経と健康	演習	PP アシスタントあり	
7	14	ボディーアセスメントとボディーケア	演習	PP/ヨガマット	
8	16	試験対策・まとめ		PP	
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
なし					
＜評価方法＞					
終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護英会話		15	1	1年次	ピーター・マカーン
<学習目標> 1. 看護に関する医療用語について理解できる。 2. 外国人患者との意思疎通のための英会話を学ぶことができる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	Unit 1 & 2	May I ask your name? / Where are you from? / What do you do? / May I ask how old you are?	講義	
2	4	Unit 3 & 4	Could you tell me your address, please? / Is What department do you want to visit?	講義	
3	6	Unit 5	Where is the X-ray department? / Go straight	講義	
4	8	Unit 6	What's the matter / What are your symptoms?	講義	
5	10	Unit 7 & 8	Where does it hurt? / What kind of pain is it? Have you ever had any serious illnesses?	講義	
6	12	Unit 9 & 10	Take these tablets after meals Let me make an appointment for your test	講義	
7	14	Unit 11 & 12	Your surgery will be tomorrow How are you feeling today?	講義	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> クリスティーンやさしい看護英会話：医学書院					
<評価方法> 筆記試験 ポストテスト（英会話）					

専門基礎分野

准看護師教育で学んだ人体の仕組みと働きや疾病の成り立ちについて、さらに看護学の視点から系統立てて学ぶことで健康・疾病・障害に対する観察力や臨床判断能力の基盤を養うことを目的に科目を設定した。ひとが営む日常生活行動の視点から「人体の構造と機能」を学び、身体のアセスメント力を養う科目として「形態機能学」を設定した。病態と治療を理解する科目として器官系統別に「形態機能学Ⅰ～Ⅵ」を設定し、それぞれの科目ごとに器官系統別の解剖生理を学び、それと関連付けて症状、病態生理、診療・検査、治療と理解を深める内容とした。治療・処置の理解を深める内容として「臨床栄養生化学」「臨床薬理学」「病理学」「感染制御学」を学び、看護実践につなげられるような内容を設定した。

地域社会で生活する人々を対象とする保健・医療・福祉について理解を深めるために関係制度、関係する職種の役割や連携などを学ぶ科目を設定した。社会資源を活用できる知識と基礎的能力を養うため「医療概論」「社会保障・社会福祉」を学ぶ。地域で生活する人々の健康の保持増進、疾病の予防について理解し、職務を正しく遂行するために「看護関係法規」「公衆衛生」を学ぶ。

分野		学科目名	単位数	時間
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学	1	20
		臨床栄養生化学	1	15
		臨床薬理学	1	30
		病気の発生とメカニズム	1	15
		感染制御学	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	形態機能学Ⅰ（呼吸・循環）	1	30
		形態機能学Ⅱ（消化器）	1	15
		形態機能学Ⅲ（脳・神経／運動器）	1	30
		形態機能学Ⅳ（腎泌尿器／女性生殖器／耳鼻咽喉／歯科・口腔）	1	30
		形態機能学Ⅴ（内分泌・代謝／感染）	1	20
		形態機能学Ⅵ（アレルギー・免疫／膠原病／血液・造血器）	1	20
			11	255
		総合医療論	1	15
		公衆衛生	1	15
		社会保障・社会福祉	1	30
	健康支援と社会保障制度	看護関係法規	1	15
			4	75
		専門基礎分野合計		15

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学		20	1	1 年次	多々良 さつき
<学習目標> 1. ひとが生命を営むために必要な細胞の働き、生活を支える人の器官の成り立ちについて説明することができる。 2. ひとの日常生活行動を支える形態と機能について実際の生活行動と結びつけて説明することができる					実務経験：病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	生命の誕生	細胞と器官の成り立ち 遺伝子・染色体の多様性	講義	
2	4	発達する・成長する	生きる・生活するためのからだのしくみ （内部環境の恒常性と流通機構）		
3	6	〃	生きる・生活するためのからだのしくみ （恒常性維持のための調節機構）		
4	8	日常生活行動のからだのしくみ	目覚める、思考するとは 動く、活動するとは		
5	10	〃	息をする 食べるとは 排便・排尿するとは		
6	12	〃	休息する、眠るとは コミュニケーションをさせる機能とは		
7	14	老化による体の変化と日常生活への影響	老化に伴う臓器、恒常性機能の変化 老化に伴う生活行動と機能の変化		
8	16	からだを外敵から守るしくみ	止血のしくみ 免疫・炎症とは		
9	18	からだを治すしくみ	傷害に対する細胞・組織の反応 腫瘍とは		
10	20	いのちとは	「生物学的ないのち」の死 「ひと」が死ぬとは		
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> 生物の基礎ワークシート 映像学習（ビジュランサブスクの視聴）					
<テキスト等の準備物品> 人体の構造と機能③ 形態機能学 ：メヂカルフレンド社					
<評価方法>					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
臨床栄養生化学		15	1	1 年次	荻野美佐江 森 隆志
<学習目標> 1. 体内で行われる食物の消化・吸収・代謝を学び、栄養状態の正常、、異常を理解することができる。 2. 栄養の適切な摂取と健康維持について理解し、各ライフサイクルにおいて起こりやすい栄養問題について学ぶことができる。 3. 疾患を治療するための食事療法について理解することができる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	栄養生化学	糖質・脂質・タンパク質の栄養生化学 ビタミンの栄養生化学 ミネラルの栄養生化学	講義	*栄養の基本的な知識は事前学習のワークシートで確認する。
2	4			講義	
3	6	エネルギーの 栄養生化学	呼吸とエネルギー産生／糖質・脂質・タンパク質 代謝の相互の関連／エネルギー代謝異常と疾患	講義	
4	8	成長・生活と栄養	乳幼児、学童・青年期、成人期、妊産婦、高齢期の栄養と問題	講義	
5	10	食事療法	健康日本21 消化器系疾患 （胃潰瘍 クロウン病 肝硬変 膵炎） 内分泌代謝疾患（糖尿病 高脂血症） 循環器疾患（高血圧） 腎疾患（ネフローゼ症候群 腎不全）	講義	
6	12			講義	
7	14			講義	
8	16	多職種連携	栄養サポートチームの活動の実際	講義	森 隆志先生
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> ・ワークシート：細胞の構造・DNA、RNAの構造・糖質の構造・脂質の構造・タンパク質の構造					
<テキスト等の準備物品> 人体の構造と機能② 栄養生化学：メヂカルフレンド社					
<評価方法> 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
臨床薬理学		30	1	1 年次	宗田 一記
＜学習目標＞				実務経験：病院に薬剤師として勤務	
1. 薬物が作用する原理と作用に影響を与える要因を学ぶことができる。 2. 薬物による治療や予防についてその作用と影響を知り、薬物療法時の看護の役割を理解できる。 3. 薬物療法時に起こりやすい医療事故について考えることができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	生体機能と薬 生体の恒常性機能調節と薬物受容体 小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法	講義		
2	4	薬物療法の実際① 末梢神経作用薬（自律神経作用薬） 副交感神経作用薬（コリン・抗コリン作動薬） 筋弛緩薬	講義		
3	6	薬物療法の実際② 中枢神経作用薬 全身麻酔薬 オピオイド鎮痛薬 麻薬	講義		
4	8	薬物療法の実際③ 中枢神経作用薬 抗認知症治療薬 抗精神薬 パーキンソン症候群治療薬	講義		
5	10	薬物療法の実際④ 心・血管系治療薬 降圧薬（降圧利尿薬 交感神経抑制薬 Ca拮抗薬）	講義		
6	12	薬物療法の実際⑤ 心・血管系治療薬 抗狭心薬 強心薬 利尿薬	講義		
7	14	薬物療法の実際⑥ 血液作用薬 造血薬（鉄剤 エリスロポエチン等） 抗血栓薬 止血薬 血液製剤	講義		
8	16	薬物療法の実際⑦ 呼吸器系作用薬 — 気管支拡張薬 消化器系作用薬 — 潰瘍治療薬 緩下剤	講義		
9	18	薬物療法の実際⑧ 内分泌・代謝系作用薬 骨・カルシウム代謝薬 糖尿病治療薬	講義		
10	20	薬物療法の実際⑨ 抗感染症薬 — 基礎知識 抗腫瘍薬 — 抗腫瘍薬の作用部位・使い方	講義	*化学療法時看護は、臨床看護総論で学ぶ	
11	22	薬物療法の実際⑩ 抗炎症薬・解熱鎮痛薬—副腎皮質ステロイド、NSAIDS 抗アレルギー薬・免疫抑制剤 漢方薬	講義		
12	24	薬物療法時における看護師の役割 薬物療法時の医師、薬剤師、看護師それぞれの役割 「薬物療法時の医師、薬剤師、看護師それぞれの専門性を生かし、協力するとは」 「薬物療法時における看護師の役割と責務」	ディスカッション		
13	26		レポート	配点10点	
14	28	薬物療法時に起こりやすい医療事故 内服薬処方箋 内服与薬エラー 類似名称の内服薬 薬剤の単位エラー 外用薬 糖尿病治療薬（インスリン等） カリウム製剤 カテコールアミン			
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞ ・薬に関する基礎知識のワークシート（医薬品について含む）					
＜テキスト等の準備物品＞ 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞ 事前課題（ワークシート） 出席状況 筆記試験 課題レポート					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
病気の発生とメカニズム		15	1	1年次	寺西 寧
<学習目標> 1. 身体を構成している細胞・組織・器官の正常な形態や生理機能を理解することができる。 2. 症状や徴候といった病的な状態が引き起こされるメカニズムを理解することができる。 3. 様々な病因によって引き起こされる疾患の病態を理解することができる。					実務経験：医師として病院に勤務
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	病理学総論	病気と病理学 老化と死：老化現象と病気の関係	講義	
2	4		組織・細胞に生じる異常と修復	講義	
3	6		炎症 免疫とその異常 止血と循環	講義	
4	8		先天異常 感染症 環境による疾患	講義	
5	10		癌 生活習慣病 難病	講義	
6	12	病理学各論	消化管の疾患 胃・腸・肝・胆・膵の構造と疾患	講義	
7	14			講義	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
病理学：医学書院					
<評価方法>					
終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
感染制御学		30	1	1 年次	根本文江 渡辺千香 加藤和枝 大槻ゆう子
<学習目標> 1. 微生物の分類や性質を理解することができる。 2. 微生物が持つ病原性をしり、人間の感染防御機構について理解することができる。 3. 様々な感染予防策を理解し、感染制御を実践できる能力を養うことができる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	感染とその予防の基礎知識①	感染成立の条件 看護師のリスク 院内感染 標準予防策（手指衛生、PPE、飛沫・空気予防策） 感染廃棄物の取り扱い	講義	*看護技術のテキスト参照 講義担当：教員
2	4	感染とその予防の基礎知識②	洗浄・消毒・滅菌 消毒薬 無菌操作	講義	講義担当：教員
3	6	感染防止対策の実際	①手指衛生 PPEの着脱 マスクのつけ方 ②滅菌操作 ・滅菌バックの開封 ・滅菌包装の開封 ・滅菌物の取り扱い ・滅菌手袋の着用	演習	講義担当：教員 準備物品 グリッターバッグ 滅菌セット
4	8			演習	
5	10			演習	
6	12	微生物と感染症	(1)微生物の分類 (2)感染症の分類 (3)病原性と発症	講義	根本文江 5/22 10:55～
7	14	微生物による感染機序	(1)細菌・真菌の感染機序 (2) ウイルスの感染機序 (3) その他の病原体の感染機序	講義	5/23 10:55～
8	16	細菌による感染症	(1) グラム陰性菌による感染症 (2) 薬剤耐性菌による感染事例 (3) グラム陽性菌による感染症	講義	5/29 10:55～
9	18	ウイルスによる感染症	(1)DNAウイルスによる感染症 (2) RNAウイルスによる感染症 (3)COVID19による感染事例	講義	渡辺千香 6/6 10:55～
10	20	他の病原体による感染症	(1)マイコプラズマ(2)原虫 (3)リケッチア(4)クラミジア (5)プリオン (6) マダニによる感染事例	講義	6/13 10:55～
11	22	免疫の仕組みと種類 1	(1) 抗原・抗体反応と免疫応答 (2)免疫担当細胞(3)自然免疫 (4) 液性免疫と細胞性免疫	講義	6/20 10:55～
12	24	免疫の仕組みと種類 2 防	(1) ワクチンの種類と効果 (2) COVID19 のワクチンによる予防 (3) COVID19 の検査	講義	6/27 10:55～
13	26	感染症の検査・診断と治療	(1) 非特異反応による検査 (2) 病原体特異反応による検査 (3) 抗菌薬 (4) 抗ウイルス薬	講義	加藤和枝 7/3 10:55～
14	28	感染制御 1	(1) 市中感染と感染予防策 (2) 院内感染と感染予防策 (3) 隔離と検疫(4)感染症法	講義	7/18 10:55～
15	30	感染制御 2	(1) 感染経路別の感染予防策 (2) 消毒と滅菌 (3) COVID19の感染予防・治療対策事例	講義	7/25 10:55～
終講試験					
<事前学習> 感染防止のワークシート					
<テキスト等の準備物品> 看護学テキスト 微生物学・感染制御学 ： 南江堂 基礎看護技術 I 基礎看護学 (2) 医学書院					
<評価方法> 筆記試験 技術試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅰ（呼吸器・循環器）		30	1	1年次	藤生 浩一 小野 正博
＜学習目標＞				実務経験： 医師として病院勤務	
1. 呼吸器・循環器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 呼吸器・循環器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な呼吸器・循環器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	呼吸器の構造と機能	呼吸器疾患の近年の動向 呼吸器疾患をもつ患者の特徴 呼吸器の構造（気道 肺 血管系の構造 胸腔 胸膜）	講義	藤生 浩一
2	4		呼吸器の機能（呼吸調節 換気メカニズム ガス交換 酸塩基平衡）	講義	
3	6	呼吸器の症状と病態生理	呼吸不全 呼吸困難 胸痛 咳嗽 喀痰 呼吸音 血痰・喀血 チアノーゼ そのほかの症状	講義	
4	8	呼吸器疾患にかかわる診察・検査	血液検査 喀痰検査 胸腔穿刺 肺生検 血ガス分析 呼吸機能検査（フローボリューム スパイロ等） 画像検査（X線検査 胸部CT等） 内視鏡 睡眠呼吸モニタリング	講義	
5	10			講義	
6	12	主な呼吸器疾患と治療	呼吸器系感染症（気管支炎 肺炎 肺結核） 気道疾患（COPD 気管支喘息） 胸膜疾患（胸膜炎 気胸） 間質性肺炎 肺腫瘍 換気異常 肺循環障害（肺血栓塞栓症 肺高血圧）	講義	
7	14			講義	▼
8	16	循環器の構造と機能	循環器疾患の特性と近年の動向 心臓の構造と機能（刺激伝導系 電気的活動 活動電位 カルシウムイオンの役割など） 脈管系の構造と機能（血管系・リンパ系 血管の構造 静脈血の還流）	講義	小野 正博
9	18			講義	
10	20	循環器の症状と病態生理	胸痛 呼吸困難 動悸 意識消失 チアノーゼ浮腫 頸静脈怒張 ショック	講義	
11	22	循環器疾患にかかわる診察・検査	心電図（波形の意義 心電図の読み方 異常波形） 負荷心電図 ホルダー心電図 画像検査（X線検査 心エコーなど） 心臓カテーテル（スワンガンツカテーテル） 血行動態モニタリング	講義	
12	24			講義	
13	26	主な循環器疾患と治療	心不全（急性心不全 慢性心不全） 心タンポナーデ 虚血性心疾患（狭心症 急性冠症候群） 心筋症（肥大型心筋症 拡張型心筋症） 不整脈（上室性頻脈性不整脈 心室性頻脈性不整脈 徐脈性不整脈） ショック（心原性 出血性） 弁膜症 大動脈瘤 深部静脈血栓症 動脈硬化 高血圧（本態性 二次性） 閉塞性動脈硬化症	講義	
14	28			講義	
15	30			講義	▼
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
成人看護学②呼吸器 ③循環器 ：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅱ（消化器）		15	1	1 年次	間 浩正
＜学習目標＞ 1. 消化器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 消化器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な消化器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					実務経験： 医師として病院に勤務
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	消化器の構造と機能 症状と病態生理	肝臓・胆道系・膵臓の構造と機能 （胃・小腸・大腸・肛門の構造と機能） 消化器疾患の症状と病態生理	講義	
2	4		講義		
3	6	消化器疾患にかかわる診察・検査	消化器疾患の近年の動向 問診・身体所見 便検査 肝機能検査 膵機能検査 肝生検 画像検査（エコー CT MRI 腹腔鏡 造影検査） 内視鏡検査 *	講義	
4	8	主な消化器疾患 と治療	食道疾患（逆流性食道炎 食道静脈瘤 食道がん） 胃・十二指腸（ピロリ菌感染 胃炎 潰瘍 胃がん） 腸・腹膜疾患（クローン病 虫垂炎 大腸ポリープ、 ポリポーシス 潰瘍性大腸炎 イレウス クローン病 鼠経ヘルニア 腸がん 直腸がん 腹膜炎 潰瘍）	講義	
5	10		講義		
6	12		講義		
7	14		講義		
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
成人看護学⑤ 消化器 ：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅲ（脳・神経／運動器）		30	1	1 年次	小林 亨 荒井 至 高木基行
<学習目標> 1. 脳・神経、運動器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 脳・神経、運動器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な脳・神経、運動器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。 <授業計画>					実務経験： 病院に医師として勤務
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	脳・神経の構造と機能	神経組織の構造 刺激伝達のしくみ 中枢神経系・末梢神経系の構造としくみ 神経系ネットワークのしくみ 循環系ネットワークのしくみ	講義	小林 亨
2	4		講義		
3	6	脳・神経の症状と病態生理	意識障害（除皮質硬直 除脳硬直）高次機能障害 運動機能に関連する異常 脳死 顔面神経麻痺 髄膜刺激症状 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア 視力・視野障害 瞳孔異常 感覚異常	講義	
4	8			講義	
5	10	脳・神経疾患にかかわる診察・検査	全身診察法 神経学的診察法 検体検査（脳脊髄液）生理学的検査 画像診断	講義	
6	12	脳・神経の疾患と治療	脳・脊髄の循環障害（脳血管障害と危険因子 脳梗塞 TIA 脳出血 くも膜下出血 もやもや病） 脳・脊髄の感染症・炎症疾患 認知症 脳・脊髄の変性疾患（アルツハイマー型 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症） てんかん 自律神経失調症 心身症 脳腫瘍 脳脊髄液の圧・還流生涯 脊髄損傷 重症筋無力症 単ニューロパチー 硬膜下血腫 硬膜外血腫	講義	
7	14			講義	
8	16			講義	▼
9	18	運動器の構造と機能	骨の構造と機能 関節の構造と機能 筋肉の構造と機能 腱・靱帯の構造と機能 神経の構造と機能 脊柱の構造と機能	講義	荒井 至
10	20			講義	
11	22	運動器の症状と病態生理	疼痛 関節運動の異常 神経・筋肉の障害 形態異常（奇形・先天性変形、変形）歩行障害	講義	
12	24	運動器にかかわる診察・検査	身体所見 関節可動域の測定 神経学的診察法 画像検査 骨密度 関節鏡 脳脊髄液検査	講義	▼
13	26	運動器の疾患と治療	骨折（分類 治療過程と病態生理 症状 合併症） （上腕骨骨折 大腿骨骨折 小児骨折の特徴） 捻挫・打撲（靱帯損傷） 脱臼 脊椎の疾患（椎間板ヘルニア 脊髄・脊椎損傷） 筋・腱の疾患（筋ジストロフィー） 骨・関節の炎症性疾患（骨髄炎 関節リウマチ 変形性関節症） 骨腫瘍（骨肉腫） 骨粗しょう症 ロコモティブ	講義	高木 基行
14	28			講義	
15	30			講義	▼
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
成人看護学⑥脳・神経 成人看護学⑩運動器 ：メヂカルフレンド社					
<評価方法>					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅳ（腎泌尿器／女性生殖器／感覚器）		30	1	1 年次	橋本樹 田中勝彦 佐久間仁 外島寛朗
＜学習目標＞					実務経験：
1. 腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	腎・泌尿器の構造と機能 腎臓の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能	講義	橋本 樹	
2	4		講義		
3	6	腎・泌尿器の症状と病態生理 浮腫 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡の障害 血液異常 排尿の異常 尿の異常 疼痛	講義		
4	8	腎・泌尿器疾患にかかわる検査・処置 尿検査 腎機能検査 画像検査 内視鏡検査 尿流動態検査	講義		
5	10	腎・泌尿器の疾患と治療 糸球体疾患（糸球体腎炎 IgA腎症 ネフローゼ症候群 糖尿病性腎炎） 腎不全（急性腎障害 急性腎不全 慢性腎不全 慢性腎臓病） 尿路の疾患（尿路結石症 水腎症 腎盂腎炎 膀胱炎 尿路感染症） 尿路・男性生殖器の腫瘍 （腎細胞がん 膀胱がん 前立腺がん 前立腺肥大症） ＊透析治療については臨床看護総論で履修する。	講義		
6	12		講義		
7	14		講義		
8	16	女性生殖器の構造と機能 外性器・内性器の構造 骨盤底の構造 女性生殖器の機能（女性ホルモンと機能）	講義	田中 勝彦	
9	18	女性生殖器疾患の症状と病態生理、検査、治療 内分泌の異常（月経異常） 女性のライフサイクルの変化 （思春期の異常 PMS 月経困難症 更年期障害） 性器の炎症、感染症（膣炎 クラミジアほか） 子宮疾患（内膜症 筋腫 体癌・頸癌 胞状奇胎） 卵巣疾患（卵巣腫瘍） 不妊症 治療（子宮全摘出術 放射線治療）	講義		
10	20		講義		
11	22		講義		
12	24	耳鼻咽喉 耳鼻咽喉の構造と機能 耳鼻咽喉の症状と病態生理、検査（難聴 鼻出血めまい 嚥下障害） 耳鼻咽喉疾患と治療（メニエール病 中耳炎 扁桃炎咽頭扁桃肥大 咽頭がん 喉頭がん）	講義	佐久間 仁	
13	26		講義		
14	28	歯・口腔 歯・口腔の構造と機能 歯・口腔の症状と病態生理 検査 小児・老年期の口腔内・歯の特徴など 歯・口腔疾患と治療 （齲歯 歯周病 感染症など） ブラッシング・入れ歯の仕方など	講義	外島 寛朗 ＊8020運動などの取り組みも含む	
15	30		講義		
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
成人看護⑦腎・泌尿器 ⑩女性生殖器 ⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 ：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅴ（内分泌・代謝／感染症）		20	1	1 年次	寺澤 崇
＜学習目標＞ 1. 感染症、内分泌疾患の症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 感染症、内分泌疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な感染症、内分泌疾患の原因・症状・治療について理解し、看護における科学的根拠と結び付けて考えることができる。					実務経験：
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	主な感染症疾患と治療	日和見感染 院内感染 敗血症 性感染症 MRSA 蜂窩織炎 ボツリヌス菌 腸管出血性大腸菌 レジオネラ菌 梅毒 ノロウイルス感染症 単純ヘルペスウイルス感染症 水痘／带状疱疹 伝染性単核球症 HIV感染症	講義	＊感染の成立、感染を起こす微生物、生体防御機構は感染制御学で履修する
2	4		講義		
3	6	内分泌器官の構造と機能	視床下部・下垂体の構造と機能 甲状腺、副甲状腺の構造と機能 副腎皮質・髄質の構造と機能 消化管ホルモン分泌器官の構造と機能 性腺・乳腺の構造と機能	講義	
4	8		講義		
5	10	内分泌疾患にかかわる検査・処置	内分泌機能検査 ホルモン負荷試験 甲状腺シンチ	講義	
6	12	主な内分泌疾患と治療	視床下部・下垂体疾患（先端巨大症 尿崩症 クッシング症候群など） 甲状腺疾患（バセドウ病 クレチン症 橋本病 甲状腺がん） 副甲状腺疾患（機能亢進症 機能低下症など） 副腎皮質・髄質疾患（クッシング症候群 アルドステロン症 アジソン病）	講義	
7	14		講義		
8	16		講義		
9	18	栄養・代謝疾患	糖尿病（病態生理 症状 検査 治療） 脂質代謝異常 肥満 メタボリックシンドローム 痛風 栄養の異常（ナトリウム代謝異常 カリウム代謝異常 カルシウム代謝異常）	講義	
10	20		講義		
11	22			講義	
12	24			講義	
13	26			講義	
14	28			講義	
15	30			講義	
終講試験					
＜事前学習＞ ビジュランサブスクの視聴					
＜テキスト等の準備物品＞ 成人看護学⑧内分泌／栄養・代謝 成人看護学⑨感染症／アレルギー・免疫／膠原病：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞ 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅵ（アレルギー・免疫／膠原病／血液・造血器）		20	1	1 年次	寺澤 崇
＜学習目標＞ 1. アレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患の症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. アレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主なアレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護における科学的根拠と結び付けて考えることができる。					実務経験：
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	アレルギー・免疫の基礎知識	免疫反応（2つの免疫系 免疫機能に重要な細胞 免疫系活性化の機序）	講義	
2	4		アレルギー反応のしくみと分類（Ⅰ型～Ⅳ型アレルギー） 生体防御機構	講義	
3	6	アレルギー疾患と検査、治療	蕁麻疹 接触皮膚炎 アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー	講義	
4	8	膠原病の疾患と治療	膠原病発症のしくみ 関節リウマチ SLE シェーグレン症候群 ベーチェット病	講義	
5	10	血液・造血器の構造と機能	血液の成分と機能 （赤血球 白血球 血小板 血漿）	講義	
6	12		止血機構 造血：血球産生の機序	講義	
7	14	血液・造血器の疾患と検査・治療	検査（血液検査 骨髄穿刺） 治療（造血幹細胞移植 輸血療法） 鉄欠乏性貧血 巨赤芽球貧血 再生不良性貧血	講義	*骨髄穿刺の看護は、基礎看護技術Ⅳで履修
8	16		急性白血病 慢性骨髄性白血病 悪性リンパ腫	講義	*輸血時の看護は、基礎看護技術Ⅳで履修
9	18		成人T細胞白血病 多発性骨髄腫 血友病	講義	
10	20		特発性血小板減少性紫斑病 血栓性血小板減少性紫斑病 IgA血管炎 播種性血管内凝固	講義	
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞ ビジュランサブスクの視聴					
＜テキスト等の準備物品＞ 成人看護学④血液・造血器 成人看護学⑨感染症／アレルギー・免疫／膠原病：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
総合医療論		15	1	2年次	原 寿夫
＜学習目標＞					実務経験： 病院に医師として勤務
1．医療の歩みと医療観の変遷がわかる。 2．医療の現状と今後の課題について理解することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	医療の歩みと医療観の変遷	講義		
2	4	私たちの生活と医療 少子高齢化社会と地域包括ケア	講義		
3	6	科学技術の進歩と現代医療の最前線 現代医療の新たな課題	講義		
4	8	医療を見つめ直す新しい視点	講義		
5	10	保健・医療・介護・福祉の近未来像	講義		
6	12	認知機能が低下した高齢者や認知症の方に 対するケア技法の1つ	講義・演習		
7	14	「ユマニチュード」について			
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
別巻 総合医療論 ：医学書院					
＜評価方法＞					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
公衆衛生		15	1	2年次	秦 暁子
＜学習目標＞					実務経験：
1．人々の健康の保持、増進、疾病の予防に必要な公衆衛生活動について理解することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	公衆衛生の意義、健康の概念、公衆衛生活動の方法	講義		
2	4	疫学、地域の人々の健康指標（人口統計、保健統計）	講義		
3	6	母子保健、歯科保健	講義		
4	8	成人保健、高齢者保健福祉	講義		
5	10	精神保健福祉	講義		
6	12	難病、障害者・障害児保健福祉	講義		
7	14	産業保健、学校保健、感染症対策	講義		
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 ：医学書院					
＜評価方法＞					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
社会保障・社会福祉		30	1	2年次	高橋 淳
<学習目標> 1. 社会保障と社会福祉の概要を理解し、保障内容を理解する。 2. 社会保障・社会福祉の制度とそれを担う体制を知り、多職種連携の必要性を理解する。 3. 現代社会とその経済の変化を理解し、今後の社会保障・社会福祉の動向を学ぶことができる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	社会保障制度と社会福祉①	社会保障の概念・目的・機能・体系・内容	講義	
2	4	社会保障制度と社会福祉②	社会福祉の法制度 社会福祉法と福祉6法 社会福祉の組織と実施体制	講義	
3	6	社会保障・社会福祉の動向	現代社会の変化と地域社会の変化 家族・個人の変化と経済状況、雇用状況 社会保障・社会福祉の動向	講義	
4	8	医療保障①	医療保障制度の構造と体系 健康保険と国民健康保険	講義	
5	10	医療保障②	高齢者医療制度	講義	
6	12	医療保障③	保険診療のしくみ 公費負担医療	演習	
7	14	介護保障①	介護保障制度の概要 保険給付 介護保険の財政	講義	
8	16	介護保障②	介護保険サービスの実際 事例を用いて考える要介護認定とサービス	演習	
9	18	所得保障	所得保障制度のしくみ 年金保障制度	講義	
10	20	介護扶助	生活保護制度のしくみ	講義	
11	22	社会福祉サービス①	高齢者福祉 障害者福祉	講義	
12	24	社会福祉サービス②	児童家庭福祉	講義	
13	26	社会福祉実践と医療・看護①	社会福祉援助 個別・集団援助技術 間接・関連援助技術	講義	
14	28	社会福祉実践と医療・看護②	連携の重要性 社会福祉実践と医療・看護の連携	講義	
15	30	社会福祉の歴史 国家試験対策	日本・諸外国の社会福祉について 看護師国家試験対策について	講義	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
社会保障・社会福祉:医学書院					
<評価方法>					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護関係法規		15	1	2 年次	斎藤 正一
＜学習目標＞					実務経験：
1. 法律の基礎知識を学び、医療従事者としての責務を理解することができる。					
2. 法律や制度が看護実践にどのようにかわるのか学ぶことができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	法の概念①	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
2	4	看護法 保健師助産師看護師法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
3	6	医事法 医療法 医療を支える法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
4	8	保健衛生法 母子保健法 学校保健安全法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
5	10	学校保健法 感染症に関する法 環境衛生法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
6	12	労働法 労働基準法 労働安全衛生法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
7	14	環境法 環境基本法 公害防止法	講義	テキスト レジюме フィードバックレポート	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 ：医学書院					
＜評価方法＞					
筆記試験					

専門分野

専門分野では、「基礎分野」「専門基礎分野」で学んだ知識を土台に、基礎看護学、各領域別看護、看護の統合と実践を学び、看護とは何かを深めていくことを目的としている。

「基礎看護学」では准看護師教育で修得した看護実践の共通の概念と看護技術の原理原則を土台に臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論、フィジカルアセスメント、看護の展開方法等を学ぶことを目的とする。「看護学概論」等ではジグソー法など学習方法を工夫し、教えあいながら学習を進めていくことで知識の定着をはかる。「看護技術Ⅰ～Ⅳ」では、日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、対象に応じた看護技術を実践できることを目標とする。「臨床看護総論」では、健康状態の経過に基づく看護、化学療法・放射線療法をうける対象への看護を学ぶ。また、医療機器を必要とする対象への看護では医療機器の操作と安全管理のスペシャリストである臨床工学技士から安全で適切な使用方法等を学ぶ。「看護研究」ではケーススタディを通して、自身の思考を整理し、自身の看護の課題を明確にすることでもっと看護を知りたい、もっと看護を学びたいという意欲につなげる。

各看護学においては、成長発達を軸に概論、援助技術、演習の構成とし、特徴的な健康障害の事例を基に看護過程を展開し臨床看護実践能力の育成につなげる。各看護学にこだわらない領域横断の科目として「周術期と看護」「終末期と看護」を設定することで効果的・効率的な学習効果を目指す。

「看護の統合と実践」では基礎分野・専門基礎分野・基礎看護学・各看護学領域で学習した知識と技術を統合する内容で構成する。主な内容は、看護管理の目的と機能、チーム医療及び多職種との協働・連携、医療安全の基礎知識、災害看護、国際社会における看護の役割を学ぶ。「臨床看護実践論」では、臨床の事象を学習目標に合わせて再現し、実際に行動し、リフレクションするシミュレーション教育を取り入れる。そうすることで必要な知識を使って思考し、問題を解決する能力、つまりは臨床判断能力を養う。

分野		学科目名	単位数	時間
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	15
		基礎看護技術Ⅰ	1	30
		基礎看護技術Ⅱ	1	30
		基礎看護技術Ⅲ	1	30
		基礎看護技術Ⅳ	1	30
		臨床看護総論	1	30
		看護過程Ⅰ	1	15
		看護過程Ⅱ	1	30
		看護研究Ⅰ	1	15
		看護研究Ⅱ	1	30
		基礎看護学合計	10	255
	地域・在宅看護論	地域と社会	2	45
		地域・在宅看護論Ⅰ	1	15
		地域・在宅看護論Ⅱ	1	30
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	30
		地域・在宅論合計	5	120
	成人看護学	成人看護学概論	1	20
		成人看護学Ⅰ	1	30
		成人看護学Ⅱ	1	30
		成人看護学学科合計	3	240
	老年看護学	老年看護学概論	1	15
		老年看護学Ⅰ	1	30
		老年看護学Ⅱ	1	30
		老年看護学学科合計	3	75
	小児看護学	小児看護学概論	1	15
		小児看護学Ⅰ	1	30
		小児看護学Ⅱ	1	30
		小児看護学学科合計	3	75
	母性看護学	母性看護学概論	1	15
		母性看護学Ⅰ	1	30
		母性看護学Ⅱ	1	30
		母性看護学学科合計	3	75
	精神看護学	精神看護学概論	1	15
		精神看護学Ⅰ	1	30
		精神看護学Ⅱ	1	30
		精神看護学学科合計	3	75
	健康状態に応じた看護	周術期と看護（領域横断）	1	15
		終末期と看護（領域横断）	1	30
		健康状態に応じた看護合計	2	45
	看護の統合と実践	看護管理	1	15
		医療安全	1	15
		災害看護/国際看護	1	20
		臨床看護実践論	1	30
		看護の統合と実践合計	4	80

I. 基礎看護学の考え方、目的・目標

基礎看護学は、准看護師教育で修得した知識・技術・態度を基盤とし、各領域の看護実践を支える共通概念（人間、環境、健康、看護）と看護の意義や理論、科学的根拠を学び、看護の対象に最善の看護を提供する能力を養うことを目的とする。そのため、内容は、看護学概論、基礎看護技術、臨床看護総論、看護過程、看護研究で構成する。看護学概論では、看護の共通概念を理解し、「看護とは何か」を問いながら学生が主体的に学べるよう、学習方法を工夫する。また、社会や人々の価値観の多様化のなかで、看護師としての倫理的判断が正しく行える能力を養う。

基礎看護技術、臨床看護総論では、准看護師教育で修得した知識・技術・態度を基盤に、人間の生理的側面や心理的側面について深く理解し、対象を生活者として捉え、科学的根拠を基に技術を提供できる力を養う。看護過程では、看護実践に必要な系統的で意図的な思考過程を学ぶ。看護研究ではケーススタディを行い、臨地実習での学びや新しい発見を掘り下げ、自らの看護を科学的・論理的に振り返る機会とする。

人間を対象に看護を展開するため、人に寄り添う姿勢を持ちながら援助的な人間関係を形成し、倫理に配慮した看護の提供や実施する看護についての十分な説明が必要となる。そのため、コミュニケーション能力の強化、問題解決能に基づく看護実践力の強化、倫理に基づいた安全なケアの提供を図るため、看護技術を適応する事例を用いた方法で学習を進める。

<基礎看護学の目的>

看護の本質を理解し、看護の対象に最善の援助を行うために必要な知識・技術・態度を養う。

<基礎看護学の目標>

1. 看護の概念と役割を理解し、看護とは何かを考察することができる。
2. 看護師としての態度と倫理に基づいた姿勢を養うことができる。
3. 看護の対象を多様な視点で捉え、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけることができる。
4. 看護を探究する姿勢を養うことができる。

II. 地域・在宅看護論の考え方、目的・目標

日本では諸外国に例を見ない速さで進む高齢化を背景に、地域のすべての人々が、可能な限り住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けられるように地域包括ケアシステムの構築が推進されている。人々は地域で生活を営んでおり、生活のありようと健康状態は密接に関連している。地域で暮らす人々の生活と健康を守る支援は、看護の本質であり、看護の観点で地域をとらえることが重要である。近年、人々の生活は多様性・複雑性を増しており、いかなる場で看護に従事しても“地域で展開する看護”に対する理解が不可欠となっている。地域で看護を実践するためには、個人と家族だけでなく生活を査定し、生活の多様性を理解する力が必要である。また、個人・家族が生活する地域特性を理解し、人々が生活する、様々な場での看護について学ぶ。

地域と社会では、地域の定義を学び、人々が生活する自治会や小中学校校区などの地域エリアについて理解するとともに、地域コミュニティについて学ぶ。地域の人口構成や産業構造、文化の多様性を理解し、個人・家族システムと地域システムについて学ぶ。また、住民活動や「自助」「互助」「共助」「公助」について学び、これらの知識を基盤とし、探求活動を行い、地域特性や社会資源について理解する。また、地域住民の健康意識の違いや地域の健康課題を理解し、他領域での健康課題の把握や指導に役立てることを期待する。

地域・在宅看護論Ⅰでは、地域・在宅看護の対象と家族について理解すると共に、地域生活におけるリスクや災害対策について学ぶ。更には、地域・在宅看護実践の場と関わる多職種、それらの職種との連携について学ぶ。また、地域・在宅看護にかかわる制度として、介護保険制度・医療保健制度、訪問看護制度や地域保健にかかわる法制度等を学び活用方法を理解する。

地域・在宅看護論Ⅱでは、療養の場での安全を守る看護技術として、療養者の暮らしとリスクマネジメントについて学習し、安全な療養環境と環境調整について理解する。また、暮らしを支える看護実践として、在宅療養の場で提供される看護技術について学習する。日常生活の援助に加え診療の補助を学び、医療依存度の高い療養者や重度障がいの状態、終末期であっても住み慣れた地域での生活が可能であることを理解する。さらに在宅療養時期別の看護について学習し、入院から在宅療養、在宅療養から入院へのスムーズな移行を支援する方法を学ぶ。

地域・在宅看護論Ⅲでは、地域における多職種連携・チームでの協働、多様な場における地域・在宅看護マネジメント、退院支援について学ぶ。また、在宅療養者への看護過程として、「身体」「心理」「社会的」側面に加え、「家族・介護状況」の四側面から対象を捉え、療養者・家族の望みを尊重し、意思決定を支援することの重要性を理解する。問題解決に囚われず生活を重視した目標達成志向を学ぶ。

<地域・在宅看護論の目的>

人々が生活する基盤である地域について理解し、健康の保持・増進や様々な健康状態にある対象の看護が実践できる基礎的能力を養う。

<地域・在宅看護論の目標>

1. 地域特性と、地域・在宅看護の対象を理解することができる。
2. 療養の場で提供される看護の特徴と、療養生活のリスクマネジメントについて学ぶことができる。
3. 療養者を支える保健・医療・福祉制度について理解することができる。
4. 療養者と家族が住み慣れた地域で生活し続けられる支援方法を学ぶ。
5. 療養者を取り巻く多職種の連携と協働について理解することができる。

Ⅲ. 成人看護学の考え方、目的・目標

成人期は発達段階の視点から、青年期、壮年期、向老期に区分され、それぞれ異なる発達課題がある。いずれの時期においても成人期にある人は、社会における中心的役割を担い、自立・自律し、意思決定できる存在である。そのため健康障害を持ったとしても、治療法や療養に責任を持ち、セルフマネジメントできる存在として捉える。成人の健康は、ライフイベントや生活習慣、労働環境、人間関係などさまざまな要因に影響を受け、健康障害がもたらされる。健康意識の高まりや医療の高度化、在院期間の短縮など成人の健康問題を取り巻く環境が大きく変化しつつある近年、危機的状況や苦痛の緩和への対応はもちろん、慢性期にある人の健康教育や患者教育などセルフケア行動をとれるよう支えていく看護の意味も大きい。また成人期にある人が健康問題を持つことは、家族構造を変化させ、家族の役割関係に影響を及ぼすため家族への支援も必要である。対象の多様な状態に合わせ、生活スタイルや価値観を踏まえ、それぞれに合わせたQOLを追究していく。そのためには、成人各期の対象となる人々を総合的に理解し、各々が役割責任をもち、活動しうるための健康の維持増進及び疾病予防、健康障害から回復に至るまでの健康のあらゆるレベルに対応できる援助能力としての知識、技術、態度について学ぶ。

成人看護学概論では、成人期にある人々の「生活」を中核とし、健康・健康障害、看護実践の基礎理論、地域における支援等で構成する。はじめに人の成長・発達過程における成人期の位置づけを捉え、成人を取り巻く社会環境と生活の特性、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について理解する。また成人期にある人々と健康障害の特性、看護における人間関係の形成プロセス、患者・家族の意思決定及び学習支援について理解する。さらにヘルスプロモーション、急性・慢性状況、リハビリテーション、がん医療等における支援、及び人生の最期を迎える人とその家族に寄り添うこと、地域・在宅における療養生活への支援について学ぶ。

成人看護学Ⅰでは、生命の危機状態をもたらす主な疾患や障害についての病態と治療、検査や処置について理解する。また急性期にある患者・家族へ与える影響を理解し、治療が優先される状況にあっても常に生活者としてQOLを意識した看護について学ぶ。さらに慢性疾患の特性を踏まえ、そのなかで生活を営むときに遭遇する事象、そしてそれらの事象とともに地域で暮らす生活者の視点で人々とその生活を捉えることによって、人々が求める質の高い看護とは何かを学習する。

成人看護学Ⅱでは、事例を活用し急性期・慢性期看護に必要な技術を学び、実践的な方法を習得する。地域で暮らす健康な成人期にある人を理解するために、健康診断・人間ドックをはじめ生活習慣病を早期に発見するための健康診断や企業の産業健康における保健活動を学び、健康の保持増進を支援する看護師の役割を理解する。また事例による看護過程を展開することで、看護を実践できる基礎的能力を養う。

成人・老年看護学実習では、成人期・老年期にある対象の健康問題・加齢現象および発達課題に対して、成人期から老年期の移行に伴う身体的・精神的・社会的変化と経験に対して焦点をあて、つながりを理解し、対象のニーズに応じた看護の基礎的実践能力を学ぶ。高齢化が進む社会情勢を鑑み、受け持ち患者の対象を現場でのニーズがより深まる成人期から老年期へと幅を広げ、成人期を含め超高齢社会に柔軟に対応できる能力を養う。本校では、成人看護学実習と老年看護学実習を合わせて4単位履修する組み立てとする。成人・老年看護学実習Ⅰ、成人・老年看護学実習Ⅱと

し、急性期と慢性期の看護を学ぶ。

成人・老年看護学実習Ⅰでは、急性期で積極的治療（手術療法・薬物療法・放射線療法）を受ける人への看護を通し、心身の危機的状況から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの対象の回復過程を捉え、生活行動拡大のために必要な看護技術を状況に応じて実践する能力を養う。あわせて、急性期看護における保健・医療・福祉チームの連携を学び、看護師としての自己の役割を考えることを目標とする。また生活の中で役割を果たしながら長期にわたり治療、療養する成人期・老年期にある人を理解するために、外来で行われている化学療法・放射線療法を見て学ぶ。

成人・老年看護学実習Ⅱでは、健康障害があり入院治療を必要とする慢性期疾患患者の看護を学習する。慢性疾患患者は長期間の治療や自己管理が必要となり、成人期にある対象は、社会生活を営みながら、症状をコントロールするなど自己管理が重要となる。また、老年期にある対象は、加齢に伴う身体生理機能低下が加わることで症状や病気が進行していく。治療援助のみではなく、対象の特徴をふまえた予防、生活支援の視点やQOLの維持・向上を目指した看護が重要となってくる。慢性期看護で大切な、対象の特徴をふまえたアセスメント、疾病の進行や障害をコントロールするための支援、病状理解や意思決定支援、セルフケア支援、患者や家族への教育や指導を学べる実習とする。実習の中で看護過程の展開を用いて看護実践を行う。対象の入院前の生活習慣を意識しながら関わり、対象の個別性に合った看護計画の立案を行い、実施しながら評価修正までを行う実習とする。

<成人看護学の目的>

成人期にある人の特徴を理解し、健康の保持増進と疾病予防および健康上の問題を総合的にとらえ、看護を実践できる基礎的能力を養う。

<成人看護学の目標>

1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴を理解することができる。
2. 成人期にある人を生活者の視点からとらえ、健康問題や障害の特徴とその看護を理解することができる。
3. 健康問題が対象と家族に与える影響を理解し、その経過や状況に応じた看護の基礎的知識・技術を習得することができる。
4. 成人の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状および課題を理解することができる。
5. 成人期にある人の多様な価値観を理解し、倫理に基づいた看護について考えることができる。
6. 成人を支える看護について看護理論を活用した看護アプローチができる。

IV. 老年看護学の考え方、目的・目標

世界に類をみない超高齢社会を迎え、高齢者を対象とした看護のニーズが高まっている。一方で要介護者の増加が社会問題となっており、いかに最期までその人らしく生きるか、つまり長く生きるだけでなく、生きることへの質が問われる時代になり、老年看護学の果たす役割は大きい。また老年看護学の対象となる高齢者は、長年歩んできた人生の多様な経験、価値観、生活習慣を持っている。そのため、加齢に伴う心身の変化や疾病の影響に加え、長年の生活習慣や背景、価値観や生き方を尊重する姿勢が大切である。

家族形態の変化に伴い現代の学生の多くは、高齢者の生活をイメージすることが難しい。また、加齢や複数の疾患による影響が日常生活に及ぼす影響など多くの要因が絡み合うことから高齢者を理解することが難しい。そのような状況の中で、高齢者の加齢による特徴を理解するところからはじまり、あらゆる健康レベルの高齢者に対して、その人らしい生活の実現をするための看護を学んでいく。

老年看護学は、高齢者の健康増進・疾病予防からエンド・オブ・ライフに至るまでの連続した健康と生活への援助が必要である。エンド・オブ・ライフを迎えようとしている高齢者と家族においては、よりその人らしく、最期まで尊厳を保った生活を送れるよう、多方面からの看護ケアを考えることが重要である。また、自宅、医療機関、社会福祉施設といった高齢者を支える生活の場も多様化してきているため、医療機関だけでなく、地域の様々なケア施設、地域包括ケアに位置づけられる様々なケアサービスを視野に入れた看護について学ぶ。

老年看護学概論では、老年看護学を学ぶにあたり必要となる基本的な視点について学ぶ。まず高齢者を理解するにあたり、高齢者の生きてきた時代背景を学び、老年看護の基本となる考え方や保健医療福祉制度の変遷を学んでいく。老年看護のなりたちから老年看護の歴史を知り、老年看護学とは何か考える。また、老年看護の目標や看護の場での役割を学び、高齢者の理解や看護を考えながら学んでいけるようにする。老年看護を実践する中で必要な看護理論について学んでいく。自宅、医療機関、社会福祉施設といった高齢者を支える生活の場も多様化してきている。医療機関だけでなく、地域の様々なケア施設、地域包括ケアに位置づけられる様々なケアサービスを視野に入れた高齢者を取り巻く、保健・医療・福祉制度について学ぶ。

老年看護学Ⅰでは、高齢者疑似体験を行い、身体的特徴や高齢者の気持ちを理解し、看護する視点を養い、加齢による身体的機能の変化が日常生活へ及ぼす影響を学んでいく。また、健康増進、急性的な疾患や病状の変化、リハビリテーション期、慢性期、エンド・オブ・ライフという経過別の一連の状態においての高齢者への看護を学ぶ。高齢者とのコミュニケーションや転倒・転落への予防、食事の援助など高齢者の日常生活を支える具体的な援助について学ぶ。また、高齢者に起こりやすい特徴的な症状が高齢者の生活にどのように影響しているのか、生活機能の低下を補う看護を学ぶ。治療や健康レベルに応じた高齢者がもつ潜在的な強みを見出すアセスメントの視点を学ぶ。フレイルやロコモディブシンドローム、サルコペニア、スキンテアなど、近年注目されている内容についても学んでいく。また、高齢者の特徴や、身体面、精神面、社会面の特徴をふまえて包括的にアセスメントする視点を養う、高齢者のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。

老年看護学Ⅱは、高齢者に発症しやすい症状や、健康上の課題もつ高齢者への看護を学ぶ。高齢

者特有の疾患について、病態、症状、検査、診断、治療やアセスメントの視点を学ぶ。また、事例を通して疾患の看護や援助への学びを深められるよう、演習を取り入れた講義を行っていく。認知症については、認知症ケア認定看護師より患者や家族との関わり方を中心に学ぶ。

<老年看護学の目的>

老年期の発達課題及び加齢に伴う変化や健康障害が及ぼす影響について総合的に理解し、あらゆる健康レベルにある対象とその家族のQOLの維持・向上をめざした看護を実践できる基礎的態度を養う。

<老年看護学の目標>

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的側面を総合的に理解できる。
2. 高齢者の加齢による機能低下に対する看護援助を理解できる。
3. 高齢者の健康レベルに応じ、強みを活かしたその人らしい生活を送るための援助を理解できる。
4. 疾病や療養生活が対象及び家族に与える影響を知り、必要な援助が理解できる。
5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割が理解できる。
6. 老年期にある対象を尊重し、老年観を深めることができる。

V. 小児看護学の考え方、目的・目標

小児期は、療育者や家庭環境、地域社会環境の影響を受けて、心身ともに急速に成長・発達する時期であり、人間形成の基礎が培われる重要な時期である。しかし、近年の小児とその家族を取り巻く環境は、少子化、核家族化、情報化、都市化など急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化し、その一方で人間関係、地域におけるつながりの希薄化など様々な問題が生じている。それに伴い、生活習慣病の増加やこころの問題、児童虐待など小児の健康問題が複雑化している。また、医療技術の進歩により、超未熟児や先天的な疾病を持つ小児の命も救われるようになった一方で、長期の入院や生きるために医療的ケアが必要な小児が増えている。こうした状況の中で、‘子どもの最善の利益’が守られ、その子らしく生き、生活できるよう、小児の成長・発達を理解し、さまざまな健康状態にある小児の看護について学ぶ。

小児看護学概論では、准看護師教育で学んだ小児看護の概要、小児の成長・発達の特徴を基盤に、各発達段階における形態的成長、機能的成長、精神運動機能の発達の観点から理解するとともに、代表的な発達理論について学び、成長・発達途上にある小児の身体的・精神的・社会的特性を理解する。また、健康な小児および障害をもつ小児とその家族が健やかに成長・発達するための保健・医療・福祉について理解する。さらに、健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響と小児を取り巻く環境についても学ぶ。

小児看護学Ⅰでは、小児期における代表的な健康問題や障害についての病態と治療、検査や処置について学ぶ。さらに健康問題や障害が小児とその家族に与える影響を理解し、健康問題の経過や状況に応じた看護、さまざまな症状を示す小児の看護を学習する。(重症心身障害児、医療的ケア児、小児の在宅療養を含む)

小児看護学Ⅱでは、健康問題や障害のある小児に必要な看護技術として検査・治療・処置時の看護、コミュニケーション技術、インフォームドアセント、プレパレーションなど実践的な方法を学ぶ。また、紙上事例を用いて看護実践に重要となるアセスメント能力、問題解決能力を習得する。

<小児看護学の目的>

小児とその家族を取り巻く環境を理解し、健康の保持・増進およびさまざまな健康状態と発達段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

<小児看護学の目標>

1. 小児の成長・発達と小児各期における発達段階の特徴を理解することができる。
2. 小児各期における主な健康問題や障害の特徴とその看護を理解することができる。
3. 健康問題や障害が小児とその家族に与える影響を理解し、その経過や状況に応じた看護の基礎的知識・技術を習得することができる。
4. 小児の成長・発達を支えるための保健・医療・福祉について理解することができる。
5. 小児とその家族を取り巻く環境を理解し、‘子どもの権利’を尊重する態度を養うことができる。

VI. 母性看護学の考え方、目的・目標

母性看護学では、女性の一生を通じた健康の保持・増進と次世代の健全育成を支援する看護を学習する。女性の各ライフステージにおける発達課題を理解し、自ら健康を保持・増進できるよう女性自身のセルフケア能力を高めるための理論や知識を学び、基礎的実践能力の育成を図る。

母性看護学の取り扱う内容は、日本および世界の女性の性に関する権利・価値観・概念の発展に影響を受けてきた経緯があり、現在も影響を受けている。また近年は男女関係のあり方や価値観が多様となり、晩婚化がすすみ、親子・家族関係が複雑で希薄なため、女性や子どもの福祉や健康が保たれにくい状況にある。また生殖医療の高度化に伴い様々なリスクや事情を抱えた妊産褥婦が増えてきており、それらに応じた関わりも求められている。

多様化する人々の価値観や複雑な状況に対応できるようにセクシャリティ、ジェンダー、ウィメンズヘルス、リプロダクティブヘルス/ライツ、倫理等の基本概念を基盤として、女性と子ども、その家族を主な対象として、妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期さらに生涯の性と生殖の健康を保持・増進する看護を学ぶ。

母性看護学概論では、准看護師教育で学んだ母性看護の概要を基盤に、母性および母性看護の概念や母子をとりまく家族の機能とその変化、家族の発達段階について学ぶ。また女性の各ライフステージにおいて身体的・心理的・社会的に起こる特有の健康問題や母子保健の動向について学習する。さらに母性看護を理解する上で重要な視点であるセクシャリティ、ジェンダー、ウィメンズヘルス、リプロダクティブヘルス/ライツについて学ぶ。

母性看護Ⅰでは、妊娠期、分娩期、産褥期の正常な経過と異常な経過および新生児の生理的特徴とその看護を学ぶ。

母性看護Ⅱでは、これまで学んだ知識を使って、母性看護学の知識を深めていく。近年注目されている地域において、子育て支援センター等の行政機関で、地域に暮らす子育て中の女性の健康な妊娠や出産後の子育てをはじめとした健康な生活の支援の実際を学ぶ。また妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期の看護実践において状態を知るのに必要な看護技術、および産褥期の事例についてその技術を用いて情報を収集し、アセスメント能力や問題解決能力を習得する。

<母性看護学の目的>

女性のライフサイクル各期の特徴、人の性と生殖とその意義、および母性各期の特徴を総合的に理解し、家族を含めた対象に応じた看護を実践できる基礎的応力を養う。

<母性看護学目標>

1. 母性看護の概念と役割を理解する。
2. 母性看護における主要な理論と看護を理解する。
3. 母性看護の対象である家族の機能と発達を理解する。
4. 母子保健の歴史と保健・医療・福祉の動向から広い視野で母性看護の対象および看護の役割を理解する。
5. 女性のライフサイクル各期の身体的、心理的・社会的特徴と看護を理解する。
6. マタニティサイクルにある対象の正常な経過と異常な経過を理解し、産褥期にある対象に看護過程を展開できる。
7. 母性看護学における基本技術を習得する。
8. 生命観や生命倫理について考えることができる。

VII. 精神看護学の考え方、目的・目標

近年における日本の精神科医療および精神保健福祉サービスのあり方は急激に変化している。

わが国の精神保健福祉対策として、精神科病院を中心とした入院治療から地域ケアへという方針を打ち出され、精神科病院の急性期病棟設置により（長期入院患者の退院は進まないが急性期入院患者の回転が速くなってきているため）平均在院日数は明らかに短縮してきている。そのため、急性期病棟の看護業務内容や看護師の役割も変化してきている。

東日本大震災をはじめとする数々の大規模災害を経て、多くの人々がトラウマ体験をくぐりぬけ、その影響を被ってきた。自然災害のような突発的な心的外傷後ストレス障害（トラウマ）だけでなく、児童虐待などの日常的なトラウマが生み出す愛着障害は近年特に注目されている。トラウマは、看護においても「難しい患者」の理解ともつながる重要な視点である。

一方病院外では、地域の状況に応じた精神保健福祉サービスのシステム構築が求められ、当事者や家族などのための様々な事業により多様なサービスが提供されるようになった。地域で働く看護師も増え、訪問看護をはじめとして看護ケアのあらたな方法が構築され、実践されるようになった。それに伴い、精神障害をもちながら地域で生活している人々への新たな発想として、当事者中心のケア・エンパワーメント、疾患の治療よりも回復（リカバリー）という考え方が重要となる。地域で暮らす当事者のニーズは医療に限られたものではないため看護師は、患者の介護や指導といった役割ではなく、自己実現に向けて回復への道のりを進んでいこうとする当事者のパートナーとしての役割が果たせるよう知識、技術、態度を学ぶ。

精神看護学概論では、准看護師教育で学んだ精神看護における概要を基盤に、精神看護の基本概念、心のはたらきと人格形成（精神力動理論、自我の防衛機制、対象関係論、エリクソンの発達理論、ボウルビーの愛着理論、甘え理論）について理解する。また、精神看護・精神科領域で必要な法律と制度について学ぶ。

精神看護学Ⅰでは、精神障害と治療法について学ぶ。特に、強迫神経症などの不安障害やパーソナリティ障害、摂食障害、心的外傷後ストレス障害（トラウマ）のほか、近年注目されているギャンブル障害、ゲーム障害、買い物依存症、不登校や家庭内暴力、虐待、自殺などもメンタルヘルスに関わる重要な問題として理解する。治療としては、薬物療法、精神療法、社会療法など、様々な治療法を組み合わせる効果的な治療が行われていることを学ぶ。また、紙上事例を用いてオレム・アンダーウッドモデルのセルフケア理論を用いた看護過程を展開し、看護実践に重要となるアセスメント能力、問題解決能力を習得する。

精神看護学Ⅱでは、精神疾患をもつ人の回復を助けるための実践的な方法（認知行動療法、SSTなど）と精神に障害をもつ人への看護に必要なオレム・アンダーウッドのセルフケア理論について学ぶ。また、心を病んだ人を目の前にして、その人を理解する過程そのものが看護であること、そのための有効な手段の一つとして、日常生活行動の援助技術、傾聴や共感といったコミュニケーション技術があることを理解する。

＜精神看護学の目的＞

精神に障がいをもつ対象を理解し、セルフケア能力に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う

＜精神看護学の目標＞

1. 精神看護の概念と役割を理解することができる。
2. 精神看護における基礎的知識・技術・態度を習得することができる。
3. 対象に応じた看護過程の展開ができる。
4. 心の健康についての考えを深めることができる。

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護学概論		15	1	1 年次	水野 淳子
＜学習目標＞					実務経験：病院に看護師として勤務経験あり
1. 看護の歴史的変遷と様々な理論家による看護のとらえ方について理解することができる。					
2. 看護活動展開のための法的根拠と看護における倫理の重要性について理解することができる。					
3. 看護教育の変遷を理解し、継続教育とキャリア開発について理解することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	看護の変遷 看護の定義 看護学におけるメタパラダイム ジグソー学習法について シート①「この理論家について私たちが知っていること」	講義 ジグソー学習法	PP ジグソー法シート①	
2	4	エキスパート活動 各グループの専門家をつくろう シート②	ジグソー学習法	ジグソー法シート②	
3	6	看護理論家：ヘンダーソン オレム ペプロウ ベナー		ジグソー法シート③④	
4	8	ジグソー活動の実施 シート③ 学びのシェア 発表 まとめ シート④			
5	10	看護の機能と役割 看護の提供者と提供の仕組み (継続教育とキャリア開発 クリニカルラダー)	講義	*看護管理との内容わけ	
6	12	看護における倫理 ①医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義	PP	
7	14	②看護実践における倫理問題への取り組み 看護の本質としての看護倫理 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義	日本看護協会 看護職の倫理綱領	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
*ジグソー学習法について調べる。					
＜テキスト等の準備物品＞					
看護学概論 基礎看護学①：医学書院 看護職の倫理綱領：照林社					
＜評価方法＞					
筆記試験・出席状況等					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
基礎看護技術Ⅰ (フィジカルアセスメント 呼吸循環を整える技術) (吸引・吸入)		30	1	1年次	榊原 信子
＜学習目標＞					実務経験：病院に看護師として勤務経験あり
1. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、フィジカルイグザミネーションを習得できる。 2. フィジカルアセスメントの目的を理解し、その方法を身につけることができる。 3. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護ケアを考えることができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	ヘルスアセスメントの意義と目的 フィジカルイグザミネーションとは	講義	
2	4	腹部のヘルスアセスメント（1）	腹部のフィジカルアセスメントの意義 消化器の解剖と機能 消化器のフィジカルイグザミネーション	講義	
3	6	腹部のヘルスアセスメント（2）		講義	
4	8	循環器のヘルスアセスメント（1）	循環器のフィジカルアセスメントの意義 循環器の解剖と機能 循環器のフィジカルイグザミネーション	講義	
5	10	循環器のヘルスアセスメント（2）		講義	
6	12	呼吸器のヘルスアセスメント（1）	呼吸器のフィジカルアセスメントの意義 呼吸器の解剖と機能 呼吸器のフィジカルイグザミネーション	講義	
7	14	呼吸器のヘルスアセスメント（2）		講義	
8	16	腹部・循環器・呼吸器の フィジカルイグザミネーション	腹部・循環器・呼吸器の フィジカルイグザミネーション	演習	
9	18	呼吸・循環を整える技術（1）	酸素療法 排痰ケア（体位ドレナージ スク イーピング ハフティング） 一時的吸引 吸入療法	講義	
10	20	呼吸・循環を整える技術（2）		講義	
11	22	呼吸・循環を整える技術（3）		演習	
12	24	呼吸・循環を整える技術（4）		演習	
13	26	呼吸・循環を整える技術（5）		演習	
14	28	フィジカルアセスメントの実際（1）	紙上事例とシミュレーターを使ってフィジカル アセスメントする。	GW	
15	30	フィジカルアセスメントの実際（2）		GW	
終講試験					
＜事前学習＞					
プリント					
＜テキスト等の準備物品＞					
系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる③フィジカルアセスメント（メディックメディア）					
＜評価方法＞					
終講試験90点 GW10点					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
基礎看護技術 II (環境/苦痛緩和・安楽確保の技術/活動・休息/清潔) *各技術に安全確保の技術を含む		30	1	1 年次	近内 絵里 捧 美幸
＜学習目標＞				実務経験：看護師として病院に勤務経験あり	
1. 看護技術における安全・安楽・自立を理解し、倫理的側面に配慮した看護技術を身につけることできる 2. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護技術を考え実施することができる。 3. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、日常生活援助技術を習得できる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	快適な環境をつくる技術	療養生活環境（知識の確認） 病室環境のアセスメントと調整	講義	近内 絵里(10)
2	4		療養環境における危険防止 安全・安楽な環境とは （認知症患者さんの環境整備など）		
3	6	安楽かつ快適さを確保する技術	1) 安楽の意義 苦痛と安楽 *メディカ出版参照 2) 安楽を確保するための援助 （1）身体的援助 ・体位変換 体位保持 環境調整 電法 清潔ケア（手浴 足浴 マッサージ） 安楽な体位の弊害（廃用症候群） （2）精神的な援助 ・患者の思いを表出してもらうための働きかけ ・タッチング リラクセーション（呼吸法など）	演習/安楽 目的の 足浴・手浴	
4	8				
5	10				
6	12	活動・運動を支援する 技術 休息・睡眠を促す技術	看護形態機能学 ・動くとは 眠るとは	講義	捧 美幸(20)
7	14		1)体を動かすこと・保持することの意義 基本的活動の基礎知識 （ボディメカニクス・良肢位・抗重力メカニズム）		
8	16		2)体位・移動に関するアセスメント		
9	18		3)睡眠・休息の援助の基礎知識 （睡眠の種類・メカニズム・睡眠障害について）		
10	20		4)睡眠のアセスメント 5)睡眠・休息の援助 6)活動・休息における危険防止		
11	22	身体の清潔を援助する 技術	看護形態機能学 *菱沼典子著参照 ・お風呂にはいる（皮膚の構造 皮膚の役割など）	講義	
12	24		1)清潔の意義（生理的・身体的・社会的） 2)清潔行為とその影響 ・身体的影響（温熱作用 静水圧作用 浮力作用 マッサージ効果） ・心理的・社会的影響		
13	26		3)清潔のアセスメント ・清潔のセルフケアに影響を与える要因 （発達段階 健康状態 環境要因 個人の生活習慣）		
14	28		4)清潔ケアの実際 清拭の目的・基本知識 口腔ケアの実際（臥床患者）		
15	30			演習	
終講試験					
＜事前学習＞					
・准看護師教育で学んだ環境、活動・休息、清潔の技術の原理原則の復習					
＜テキスト等の準備物品＞					
系統看護学講座専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②③：医学書院					
＜評価方法＞ 近内：40点 捧：60点分					
筆記試験 出席状況 課題					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
基礎看護技術Ⅲ (食事・栄養/排泄/創傷治癒管理)		30	1	1年次	近内 絵里 (20) 森 隆志 七海陽子
＜学習目標＞					実務経験：
1. 看護技術における安全・安楽・自立を理解し、倫理的側面に配慮した看護技術を身につけることができる。					
2. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護技術を考えることができる。					
3. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、日常生活援助技術を習得できる。					
(食事・栄養/排泄)					
4. 創傷管理技術の理解を深め、技術・知識を習得できる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考 (教材等)
1	2	食事・栄養摂取を促す援助技術	看護形態機能学 食べるとは *菱沼典子著参照	講義	近内 絵里 (8) 森 隆志 (2) (コップ・とろみ・スプーン・飲料水)
2	4		1) 食事・栄養の意義 (生理的・心理的・社会的) 2) 食事・栄養のアセスメント (栄養状態 水分・電解質摂取・嚥下 食欲)		
3	6		3) 摂食・嚥下訓練の実際 *摂食嚥下障害認定看護師又はSTによる講義	演習	
4	8		4) 経口摂取の援助の基礎知識と実際の援助 ・視覚障害のある患者への食事援助 ・体動制限 (臥床患者) のある患者の食事介助		
5	10		5) 経管栄養の種類と留意点 (経鼻・胃ろう) ・経管栄養法の実際 *体動制限 (臥床患者) のある患者の食事介助 →老年看護学Ⅰで実施する		
6	12	排泄を促す援助技術	看護形態機能学 トイレに行くとは *菱沼典子著参照	講義	近内 絵里 (6)
7	14		1) 排尿・排便の意義 (生理的・心理的・社会的) 2) 排尿・排便のアセスメント (自然な排泄を阻害する要因、排泄行動含む)	演習	
8	16		3) 自然排泄を促す援助 4) 援助の実際 ・持続導尿の実際 ・浣腸、排便の実際		講義 皮膚・排泄ケア認定看護師による講義 (オストミー、創傷、褥瘡、失禁について)
9	18		5) ストーマケアの実際 (基礎知識 ストーマ装具等について)	七海 陽子 (8)	
10	20				
11	22	皮膚・創傷を管理する技術	1) 創傷の分類と治癒過程 ・原因による分類 ・深さによる分類 ・汚染の程度による分類	講義 演習／*包帯法 *創傷処置 *褥瘡予防ケア	近内 絵里 (6)
12	24		2) 創傷の管理 ・スキンケア ・創傷処置		
13	26		3) 褥瘡の管理 ・褥瘡の発生要因 ・褥瘡の発生部位 ・褥瘡の分類 ・褥瘡発生の予測・予防ケア		
14	28		4) 包帯法等 *創傷、褥瘡の管理は認定看護師による講義 *創傷処置 (創洗浄、創保護、包帯法) 褥瘡予防ケアの演習は 基礎看護技術Ⅲの担当教員が講義や演習内で実施する		
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
系統看護学講座専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②③ 臨床看護総論 ：医学書院					
＜評価方法＞ 近内：70点 七海先生：30点					
出席状況 授業態度 演習態度 課題への取り組み 提出物など (10点) 終講試験 (60点)					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者	
基礎看護技術Ⅳ 与薬の看護技術／症状・生体機能管理技術 救命救急処置／診察・検査・処置の技術		30	1	1年次	白井 美緒 大槻 ゆう子 池嶋 まどか	
＜学習目標＞ 1. 与薬・輸血の基礎知識を理解し、援助技術を習得できる。 2. 検体検査について理解し、それぞれの検査時の看護援助を習得できる。 3. 救命救急処置の方法を習得できる。 4. 検査・処置の基礎知識を理解する。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり	
＜授業計画＞						
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）	
1	2	与薬の技術と 安全確保の技術	1) 与薬の方法と種類	講義	白井 美緒(20)	
2	4		2) 薬物の吸収速度・作用時間			
3	6		3) 看護師の役割 (与薬上の原則・注意点 薬の管理 誤薬防止)			
4	8		4) 与薬援助の実際 ・経口与薬 ・口腔内与薬 ・点眼 ・経皮的 ・直腸内与薬 ・注射（皮下注射・皮内注射・筋肉注射 静脈内注射・点滴静脈内注射 ・中心静脈カテーテル）			
5	10		5) 与薬における起こりやすい事故とその防止 ・注入速度（滴下の計算） ・薬剤量 （インスリン キシロカイン ml とmg） ・危険な薬剤（カリウム注射薬） ・三方活栓の使用法			
6	12		6) 輸血の管理・看護 ・援助の基礎知識	演習		
7	14					
8	16	症状・生体機能管理技術	1) 検体検査 (静脈血採血・血糖測定・尿検査・便検査) ・基礎知識 ・援助の実際	演習 *生体情報モニタリングについては臨床看護総論で学ぶ講義		
9	18					
10	20		*採血・血糖測定は、学生同士で演習を行う			
11	22	救命救急処置技術	1) 心肺蘇生法 ・基礎知識 ・一次救命処置の実際	講義・演習 *トリアージについては、災害看護で学ぶ	大槻 ゆう子(8)	
12	24		2) 止血法 ・基礎知識 援助の実際			
13	26	診察・検査・処置 における技術	1) 検査の介助 ・X線検査 ・CT／MRI ・穿刺 (胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺)	講義 *内視鏡検査の看護については消化器内視鏡技師免許を持つ看護師に講義を依頼	池嶋 まどか(2)	
14	28		2) 内視鏡検査の看護 ①検査の基礎知識 ②検査の実際 ③看護の実際			
15	30					
終講試験						
＜事前学習＞ 胸腔・腹腔、腰椎、骨髄等の解剖生理など						
＜テキスト等の準備物品＞ 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②③ 臨床看護総論 ：医学書院						
＜評価方法＞ 筆記試験 出席状況 課題 授業態度						

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
臨床看護総論		30	1	1 年次	榊原信子 長澤由紀 緑川弘子 西勝光紀
＜学習目標＞					実務経験：
1. 基礎的な知識・技術を統合し、健康状態の経過に基づく看護、主な症状を示す対象者への看護を理解できる。					
2. 基礎的な知識・技術を統合し、治療・処置を受ける対象への看護を理解できる。					
3. 医療機器についての原理・原則、を理解し、安全かつ適切に使用することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	急性期・回復期・慢性期・終末期の看護①	講義	榊原信子	
2	4	急性期・回復期・慢性期・終末期の看護②	講義		
3	6	急性期・回復期・慢性期・終末期の看護③	GW		
4	8	主要な症状を示す対象者への看護（痛みの看護）	講義		
5	10	主要な症状を示す対象者への看護（循環器に関する症状を示す対象への看護）	講義		
6	12	治療・処置を受ける対象者への看護 （化学療法を受ける対象への看護）	講義	*周手術期看護は領域横断科目で身体侵襲を伴う検査・治療の看護は基礎看護Ⅳで学ぶ	
7	14	治療・処置を受ける対象者への看護 （化学療法を受ける対象への看護）	講義	*スペシャリストナースによる講義（長澤由紀）	
8	16	治療・処置を受ける対象者への看護 （放射線療法・検査を受ける対象への看護①）	講義	*創傷ケア看護は基礎看護Ⅲで学ぶ	
9	18	治療・処置を受ける対象者への看護 （放射線療法・検査を受ける対象への看護②）	講義	（緑川弘子）	
10	20	治療・処置を受ける対象者への看護（透析受ける対象への看護）	講義	西勝光紀 *生体情報モニター12誘導は、医療介護病院より借用する 電極は学年活動費で購入 *ニプロ：透析装置 シリンジポンプ 輸液ポンプ	
11	22	医療機器を必要とする対象への看護 1) 医療機器の定義と種類	講義・演習		
12	24	2) 医療機器を使用するために必要な要素			
13	26	3) 医療機器の実際 （パルスオキシメーター・心電計・輸液ポンプ シリンジポンプ・人工呼吸器・除細動器）			
14	28	①機能と目的 ②動作原理と構造 ③使用上の注意			
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
専門分野 臨床看護総論 基礎看護学(4) ：医学書院					
＜評価方法＞					
筆記試験 出席状況 課題等					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護過程Ⅰ		15	1	1年次	多々良さつき
＜学習目標＞				実務経験：看護師として病院に勤務経験あり	
1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解することができる。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキングなど看護過程の基盤となる考え方を学ぶことができる。 3. 看護を実践するための方法として、看護過程をもちいることの意義を理解する。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	看護過程とは 看護過程の構成要素 問題解決過程 倫理的配慮 クリティカルシンキング リフレクション	講義		
2	4	看護過程のプロセス① 事例：睡眠 情報とは 情報収集の種類 アセスメントとは	講義	アセスメントの課題	
3	6	看護過程のプロセス② 事例：睡眠 アセスメントの実際	講義		
4	8	看護過程のプロセス③ 身近な出来事で関連図を描こう（GW）	GW	睡眠の関連図の課題	
5	10	看護過程のプロセス④ 全体像（関連図）と看護問題の明確化事例：睡眠を用いて	GW		
6	12	看護過程のプロセス⑤ 看護計画立案（看護目標設定 具体策）事例：睡眠を用いて	講義	具体策の課題	
7	14	看護過程のプロセス⑥ O-P T-P E-P立案 評価・修正とは	講義・GW		
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 症状別・疾患別看護ケア関連図：中央法規					
＜評価方法＞					
課題の提出 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護過程Ⅱ		30	1	1年次	多々良さつき
<学習目標> 1. 紙上事例で情報の分類・整理ができ、アセスメントすることができる。 2. 紙上事例でアセスメントをもとに全体像を把握することができる。 3. 紙上事例で具体策を立案できる。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	事例を用いた看護展開①	看護過程の展開に必要な解剖生理・病態生理の理解について 事例：腰椎圧迫骨折	講義	
2	4	事例を用いた看護展開②	①フェイスシート記載 ②情報収集と情報の整理・分類 ③情報を科学的根拠に基づいて分析・解釈 ＊呼吸、循環、排泄、飲食、姿勢・運動 睡眠・休息、体温、清潔、環境、コミュニケーションについてアセスメントする ＊アセスメントの提出（個人評価20点） その後、個人指導、またはグループ指導 ＊夏休み課題：全体関連図書き、全体像把握（個人評価10点）	個人ワーク	
3	6	事例を用いた看護展開③			
4	8	事例を用いた看護展開④			
5	10	事例を用いた看護展開⑤			
6	12	事例を用いた看護展開⑥			
7	14	事例を用いた看護展開⑦			
8	16	事例を用いた看護展開⑧	①全体像の把握（全体関連図を用いて） ②看護問題抽出・看護問題設定 グループで全体関連図を作成し、看護問題を抽出する。 ＊全体関連図完成後、グループ同士でディスカッションを行い、関連図の評価を行う。（グループ評価10点）	GW	
9	18	事例を用いた看護展開⑨			
10	20	事例を用いた看護展開⑩			
11	22	事例を用いた看護展開⑪			
12	24	事例を用いた看護展開⑫	①看護問題の抽出・優先順位の決定 ②看護問題の明文化 ③看護目標の設定と具体策の立案 ＊看護計画の提出（個人評価10点）	個人ワーク GW	
13	26	事例を用いた看護展開⑬			
14	28	事例を用いた看護展開⑭	看護計画の立案、実施の評価・修正（目標の設定と具体策の立案 O－P T－P E－P）	GW	
15	30	事例を用いた看護展開⑮		講義	
終講試験					
<事前学習> 提出課題：骨粗しょう症・脊椎椎体骨折（腰椎圧迫骨折）の病態生理・検査・治療・看護 老年期の特徴（加齢に伴う身体的変化など）					
<テキスト等の準備物品>					
<評価方法> 個人課題評価（50点） グループ課題評価（10点） 筆記試験（40点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護研究Ⅰ		15	1	1年次	捧 美幸
＜学習目標＞				実務経験：看護師として病院に勤務経験あり	
1. 看護研究の意義・目的を理解し、その進め方を学ぶことができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	看護研究とは	1) なぜ看護研究を学ぶのか 2) 看護研究の歴史 4) 看護研究の重要性	講義	テキスト PP
2	4	看護研究のはじめ方	1) リサーチクエスションとは 2) 科学的根拠とは 3) 文献とは 4) クリティークとは	講義	テキスト PP
3	6	研究における倫理的配慮	1) 倫理的配慮の原則 2) 遵守すべき倫理原則	講義	テキスト PP
4	8	研究デザイン	1) 質的研究デザインと量的研究デザイン 2) ケース レポートとは 3) 事例研究とは 4) 構成要素 5) クリティークとは 6) クリティークの方法	講義	テキスト PP
5	10	看護研究論文 クリティーク	文献レビューの作成、クリティークの実際 冊子から5つ選択し、文献レビューを作成する (文献レビュー提出 20点)	講義	テキスト PP
6	12	看護研究論文 クリティーク		講義	テキスト PP
7	14	研究計画書の作成 研究を伝える方法	1) 研究計画書とは 2) 研究計画書の書き方 1) 研究 成果をまとめる 発表の形式	講義	テキスト PP
8	15	研究発表会出席	ケーススタディ発表会 (レポート提出20 点)		
終講試験					
＜事前学習＞					
情報科学（情報倫理、文献検索）、ロジカルシンキングの復習					
＜テキスト等の準備物品＞					
系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院					
＜評価方法＞					
課題レポート：文献検索/ 文献レビュー作成（各20点） 筆記試験（60点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護研究Ⅱ		30	1	2 年次	大槻 ゆう子
＜学習目標＞ 1. 学習過程（ケーススタディ作成・発表）を通し、科学的・論理的に看護実践を振り返ることができる。 2. 自己の看護の評価を行い、今後の看護実践能力の向上につなげることができる。					実務経験： 病院での勤務経験あり
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	ケーススタディの定義	ケーススタディのタイプと目的 ケースレポートとは	講義	テキスト、PPF
2	4	ケーススタディの方法	ケースレポートの書き方、形式 文献の記載方法	講義	テキスト、PP
3	6	文献研究	ケースレポートを行う領域の決定 各自の研究テーマ・領域に合った文献をあつめ、読み込む（雑誌などから）	演習	個人ワーク
4	8			演習	個人ワーク
5	10			演習	個人ワーク
6	12	研究計画書作成	テーマ・キーワードの抽出、研究計画書作成 研究計画書提出：7月中旬	講義・演習	テキスト、PP、個人
7	14	本文作成	構成要因に沿って本文を作成 担当指導教員に指導を受けながら作成 計画的に作成を進める ケーススタディ本文提出：10月中旬	演習	個人ワーク
8	16			演習	個人ワーク
9	18			演習	個人ワーク
10	20			演習	個人ワーク
11	22			演習	個人ワーク
12	24			演習	個人ワーク
13	26			演習	個人ワーク
14	28			演習	個人ワーク
15	30	発表会準備	発表原稿・資料・スライドの作成	演習	個人ワーク
16	32	ケーススタディ発表会		評価	文集
＜事前学習＞ 情報科学（文献検索、口頭発表とポスター発表）、看護研究Ⅰの復習					
＜テキスト等の準備物品＞ 「系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院」「看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社」					
＜評価方法＞ ケーススタディ内容・発表で評価する					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域と社会		45	2	1年次	橋本真喜 社協職員
<学習目標>					実務経験：
1. 暮らしの基盤である地域について知り、地域のつながりを理解することができる					
2. 地域住民の健康意識と課題を理解することができる					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	授業ガイダンス	郡山市の現状について調べる	講義・GW	市HP/広報、行政窓口等を活用しての調べ学習
2	4	地域の特徴を理解する②	人口、高齢化率、世帯構造、死亡率、産業、健診受診率など		
3	6	地域の特徴を理解する③			
4	8	地域の特徴を理解する④	郡山市の現状について発表		
5	10	地域とは①	地域の定義、住民コミュニティ、住民活動	講義	市政きらめき 出前講座
6	12	地域とは②	地域福祉の現状と課題	講義	
7	14	地域とは③	「自助」「互助」「共助」「公助」について、協議体について	講義	社会福祉協議会
8	16	地域とは④	シルバー人材センター、ボランティアの現状	講義	
9	18	地区踏査	フィールドワークのガイダンス	講義・GW	
10	20		テーマ「地域を探求しよう」	GW	
11	22		目的、計画を立案、アポイント、踏査計画書作成	GW	
12	24		地域の社会資源について調べる	フィールドワーク	
13	26			フィールドワーク	
14	28		発表準備	GW	
15	30			GW	
16	32		地区踏査について発表	GW	
17	34	住民生活と健康①	地域住民の健康意識を調査（インタビュー）、	GW	
18	36	住民生活と健康②	調査計画書、インタビュー内容作成	GW	
19	38	住民生活と健康③	公民館活動、あさかの大学参加者、まると健康財団主催健康教室参加者、ジム利用者などへのインタビュー	フィールドワーク	
20	40	住民生活と健康④		フィールドワーク	
21	42	住民生活と健康⑤	インタビュー内容のまとめ、地域住民の健康課題と解決策の検討、地域住民の健康課題と解決策の検討・発表発表	GW	
22	44	住民生活と健康⑥		GW／発表	
23	46	住民生活と健康⑦		GW	
<事前学習>					
自分の住んでいる（住んでいた）場所の、住民組織について調べる					
<テキスト等の準備物品>					
医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1					
<評価方法>					
レポート40点＋講義・グループワーク・発表等の内容・参加態度60点					
GW取り組み状況、発表・聴講態度、レポートテーマ「地域で生活するとは」800字以上					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域・在宅看護論Ⅰ		16	1	1年次	橋本真喜
＜学習目標＞ 1. 地域・在宅看護の対象が理解できる 2. 地域・在宅看護に関わる制度と活用方法がわかる					実務経験：看護師として病院に勤経験あり
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	地域・在宅看護の対象	地域における多様性 ライフステージによる多様性	講義	
2	4	家族の理解	家族の現状、変遷、 地域・在宅看護対象としての家族	講義	
3	6	地域での暮らしにおける リスク、災害対策	暮らしにおけるリスクと安全に生活する 援助、地域での災害対策	講義	
4	8	地域・在宅看護実践の場 と連携	さまざまな場、職種で支える暮らし 地域・在宅看護実践の場	講義	
5	10	〃	地域・在宅看護における多職種連携	講義	
6	12	地域・在宅看護にかかわ る制度と活用	介護保険制度 医療保険制度	講義	
7	14	〃	医療提供体制、訪問看護制度 地域保健にかかわる法制度	講義	
8	16	〃	高齢者、障害者・難病に関する法制度 公費負担医療、権利保障	講義	
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞ 教科書第3章 演習3ワークシート1					
＜テキスト等の準備物品＞ 医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論Ⅰ					
＜評価方法＞ 終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域・在宅看護論Ⅱ		30	1	1年次	橋本真喜(16) 古川 ひとみ (14)
<学習目標> 1. 暮らしの場で提供される看護について理解する 2. 地域・在宅看護における療養者と家族を支援する方法がわかる 3. 地域・在宅看護における時期別看護がわかる <授業計画>					実務経験：看護師として病院で勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	暮らしの場で看護をするための心構え	地域・在宅看護実践とは 地域・在宅看護実践に欠かせない要素	講義	教科書2章から
2	4	セルフケアを支える対話・コミュニケーション	対象者と看護師のパートナーシップ 対象者と看護師の対話・コミュニケーション	講義	
3	6	地域・在宅看護における家族を支える看護	家族のアセスメントのポイント 家族の支援 家族支援の例	講義	
4	8	地域・在宅看護における安全をまもる看護①	療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義	
5	10	地域・在宅看護における安全をまもる看護②	地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント	講義	
6	12	地域における暮らしを支える看護実践①	療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 活動・休息に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
7	14	地域における暮らしを支える看護実践②	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
8	16	地域における暮らしを支える看護実践③	排泄に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
9	18	地域における暮らしを支える看護実践④	清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
10	20	地域における暮らしを支える看護実践⑤	苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
11	22	地域における暮らしを支える看護実践⑥	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助①	講義	訪看
12	24	地域における暮らしを支える看護実践⑦	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助②	講義	TEIJIN HOT、呼吸器
13	26	地域における暮らしを支える看護実践⑧	創傷管理に関する地域・在宅看護技術 与薬に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
14	28	時期別の看護①	健康時と外来受診期、入院時、在宅療養準備期、在宅療養移行期	講義	
15	30	時期別の看護②	在宅療養安定期、急性増悪期、終末期、終了期	講義	
終講試験					
<事前学習> 基礎看護技術の内容を復習					
<テキスト等の準備物品> 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2					
<評価方法> 終講試験（講師50点＋教員50点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域・在宅看護論Ⅲ		30	1	1年次後期	橋本真喜
<学習目標> 1. 地域・在宅看護における看護過程を理解し、療養生活を支援する方法がわかる 2. 切れ目ない看護と多職種連携・協働について考えることができる					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	地域共生社会における他職種連携・チームでの協働	看護師が果たす役割、地域在宅看護実践における多職種チーム	講義	
2	4	地域・在宅看護マネジメント①	地域・在宅ケアマネジメントとは、多様な場における地域・在宅看護マネジメント	講義	
3	6	地域・在宅看護マネジメント②	退院支援の事例から考える	講義 GW	
4	8	地域・在宅看護マネジメント③	〃	GW	
5	10	地域・在宅看護マネジメント④		GW	
6	12	地域・在宅看護マネジメント⑤	外来、介護保険の場における地域・在宅看護、地域包括支援センターの看護職が行うマネジメント	講義	
7	14	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法①	地域・在宅看護における看護過程の基本構造と考え方、ICFモデルと地域・在宅看護	講義	
8	16	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法②	看護過程の進め方と関連図作成、療養者の望みを中心においた情報整理、計画作成	講義	
9	18	地域・在宅看護活動の創造と展開例①	住民と行う地域・在宅看護マネジメント、活動の創造として「暮らしの保健室」	講義	
10	20	地域・在宅看護活動の創造と展開例②	様々な地域・在宅看護活動の展開例 訪問時のマナー	講義 演習	
11	22	事例の展開	訪問看護を利用している療養者の看護過程 フェイスシート記入、アセスメント、関連図、看護計画立案	講義 個人ワーク	
12	24	〃	〃	GW	
13	26	〃	〃	GW	
14	28	〃	〃	GW	
15	30	〃	〃	GW	発表
終講試験					
<事前学習> ICFの概念について					
<テキスト等の準備物品> 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2					
<評価方法> 終講試験、グループワーク参加状況、提出物					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
成人看護学概論		20	1	1年次	白井 美緒 本田 知久（4）
<学習目標> 1. 成人期にある人のライフサイクルからみた特徴について理解する。 2. 成人各期における健康問題の特徴と支援するための基本的な考え方を理解する。 3. 成人期にある人の人口統計の動向と、健康保持増進、疾病予防のための保健活動を理解する。 4. 保健・医療・福祉チームにおける多職種連携と看護の役割がわかる。					実務経験： 病院での勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	成人看護の対象	成人期の定義、成人期にある人の理解、社会の姿とともに変化するライフサイクル各成長・発達過程からみた成人の特徴	講義	
2	4	成人を取り巻く環境と成人の生活	働くことの意味、経済社会との関係性、職業生活が健康に及ぼす影響、家族との関係、多様なライフスタイル	講義	
3	6	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	保健統計からみた成人の健康の動向 成人を対象とした保健・医療・福祉政策	講義	
4	8		成人各期に特徴的な健康問題	講義	
5	10	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的視点	健康障害をもつことの意味、健康生活を支える人間関係の構築、患者の権利と権利擁護、インフォームドコンセント	講義	
6	12		健康の危機、ストレスとコーピング、危機理論、自己効力、アンドラゴジー、エンパワーメント	講義	
7	14	成人の健康状態に応じた看護	ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー、健康行動理論、急性期・周手術期・慢性期・終末期にある成人の理解と看護	講義	*詳細は周術期と看護・終末期と看護で履修する
8	16		成人期にある対象の事例展開（情報の整理、アセスメント、問題点の抽出）	講義・グループワーク	
9	18		リハビリテーション期にある成人の理解と看護	講義・演習	理学療法士による講義
10	20	地域・在宅への継続医療と看護	包括的ケアシステム、入退院支援	講義・演習	
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 新体系 成人看護学概論/成人保健（メヂカルフレンド社）					
<評価方法> 終講試験、授業態度					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
成人看護学Ⅰ		30	1	1年次	白井 美緒
＜学習目標＞					実務経験：看護師として病院で勤務経験あり
1. 急性期にある対象の特徴と看護の役割が理解できる。 2. 急性期にある対象の生命維持、苦痛緩和への援助方法が理解できる。 3. 慢性疾患を持つ対象とその家族の特徴、看護の役割が理解できる。 4. 慢性期にある対象とその家族に対し、疾病コントロールに必要な健康教育を理解できる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	クリティカルケア看護の基本	クリティカルケア看護とは、クリティカルケア看護の対象	講義	
2	4			講義	
3	6	クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援	全身管理 呼吸管理、体液・循環管理、体温、栄養管理、代謝管理鎮痛・鎮静管理、感染予防	講義	
4	8		日常性への支援 ポジショニング、清潔ケア、口腔ケア、排泄ケア、リハビリテーション、コミュニケーション	講義	
5	10		講義		
6	12	臨床判断プロセスの可視化	意識障害、呼吸困難、胸痛、腹痛、浮腫、ショック、せん妄	講義	
7	14	クリティカルな状態にある患者と家族の看護	急性呼吸窮迫症候群、大動脈解離、くも膜下出血患者の看護	講義	
8	16		播種性血管内凝固症候群、多臓器機能障害患者の看護	講義	
9	18	慢性期にある人と家族の理解	慢性期における身体的・心理的・社会的側面の特徴 慢性期看護の機能・役割・場について 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息患者の看護	講義	
10	20	慢性期にある人・家族への看護		講義	
11	22		慢性心不全、白血病患者の看護	講義	
12	24		潰瘍性大腸炎、脳梗塞後遺症患者の看護	講義	
13	26		パーキンソン病、慢性腎臓病患者の看護	講義	
14	28		2型糖尿病、全身性エリテマトーデス患者の看護	講義	
15	30		関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症患者の看護	講義	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
新体系 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア 新体系 経過別成人看護学③慢性期看護（メヂカルフレンド社）					
＜評価方法＞					
筆記試験、授業態度、提出物					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
成人看護学Ⅱ		30	1	1年次	白井 美緒
＜学習目標＞					実務経験：看護師として病院で勤務経験あり
1. 急性期・慢性期にある対象とその家族に対する援助方法が理解できる。 2. 地域で暮らす健康な成人期にある人の保健活動を理解する。 3. 看護過程を展開し、成人期にある人の看護について理解できる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	急性期にある患者の日常性への支援	急変時の対応、心肺蘇生（一次・二次救命処置）	講義・演習	＊心肺蘇生法の基礎知識・一次救命処置は基礎看護技術Ⅳで履修する
2	4				
3	6	慢性期にある患者への日常性の支援	熱傷、外傷患者の病態と援助方法 下降期・臨死期にある患者と家族支援 エンジェルケア	講義・演習	
4	8				
5	10	看護過程の事例展開	周手術期の事例展開 （14項目のアセスメントを記載する）	個人ワーク	
6	12		周手術期の事例展開 （14項目のアセスメントを記載する）	個人ワーク	
7	14		周術期看護の事例展開 （グループで14項目のアセスメントを共有する。 関連図を作成し、看護問題を抽出する）	グループワーク	
8	16		周術期看護の事例展開 （グループで14項目のアセスメントを共有する。 関連図を作成し、看護問題を抽出する）	グループワーク	
9	18		周術期看護の事例展開 （看護問題優先順位の決定、看護計画を立案する）	グループワーク	
10	20		周術期看護の事例展開 （グループ発表）	グループワーク （発表）	
11	22	地域で暮らす健康な成人の理解	地域における保健活動について ガイダンス	講義	
12	24		病院の健診や、市の健診センター、学校などの見学学習 ・地域で暮らす健康な成人への健康教育 ・生活習慣病対策のあれこれ ・企業行われている健診、健康教育、職業別健康セミナーなど	講義・見学	
13	26		各施設の学びの共有		
14	28		各施設の学びの発表	講義・発表	
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞ 胃がんの病態生理・検査・治療・看護 成人期の特徴					
＜テキスト等の準備物品＞ 新体系 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア 新体系 経過別成人看護学③慢性期看護（メヂカルフレンド社）					
＜評価方法＞ 筆記試験（40点）、授業態度・提出物（10点）、演習課題（30点）、レポート「一次・二次予防について」（20点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学概論		15	1	1 年次	近内 絵里
<学習目標> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を理解できる。 2. 高齢者のライフサイクルと発達課題を理解できる。 3. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度を理解できる。 4. 高齢者の権利擁護について理解できる。					実務経験：看護師として病院で勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	高齢者の理解	高齢者人口の推移と特徴／多様な高齢者像 高齢者の健康のとらえかた／高齢者の生きてきた時代 ライフサイクルと発達課題	講義	
2	4	高齢者の身体的特徴	老化のメカニズム／老化と加齢 身体的特徴／知的機能・認知機能の特徴 心理的特徴	講義	
3	6	高齢者の生活	高齢者の生活を考える視点／経済と住まい／家族の状況 生きがいと生活／身体機能・認知機能低下による生活への影響	講義	
4	8	老年看護学とは何か	老年看護のなりたち／老年看護の役割 老年看護の目標／老年看護の場と期待される役割	講義	
5	10	老年看護を支える理論・概念	老年看護における看護理論／セルフケア・オレム コンフォート理論／ピープル・センタード・ケア ストレングスモデル／エンパワメント理論／	講義	
6	12	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度	日本における保健医療福祉制度の変遷／健康づくりに関する制度・法律／介護保険制度／生活を支える地域包括ケアシステム／後期高齢者制度	講義	
7	14	高齢者の権利擁護	権利擁護と意思決定支援／高齢者に対する虐待 身体拘束／高齢者の権利を守る制度	講義	
8	16			ディベート	
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 メヂカルフレンド社 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
<評価方法> 出席状況 授業態度 課題への取り組み 提出物など 終講試験（100点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学Ⅰ		30	1	1年次	近内 絵里
<学習目標> 1. 加齢による身体的変化を知り、高齢者への関わりを考えることができる。 2. 身体面、精神面、社会面など包括的にアセスメントする視点を養い、高齢者のフィジカルアセスメントの方法を理解できる。 3. 高齢者の日常生活を支える援助を学ぶことができる。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	高齢者の身体的特徴	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験セット
2	4	高齢者の身体的特徴	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験セット
3	6	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者の健康／介護予防 認知症予防／生活習慣病予防	講義	
4	8	高齢者の経過別にみた看護	高齢者の急性期における看護	講義	
5	10	高齢者の経過別にみた看護	リハビリテーション看護 慢性期における看護	講義	
6	12	外来における老年看護	救急外来における老年看護	講義	
7	14	治療における老年看護	高齢者に対する薬物療法／服薬管理	講義	
8	16	地域・在宅における老年看護	老年看護における地域・在宅とは 退院支援／在宅看護／施設看護	講義	
9	18	健康障害をもつ高齢者の家族への看護	高齢者を取り巻く家族の状況 介護する家族の状況 介護する家族への看護	講義	
10	20	高齢者特有のリスクマネジメント	高齢者における医療安全／ 高齢者における災害看護	講義	
11	22	高齢者特有のリスクマネジメント	高齢者の特徴とアセスメントの基本 高齢者総合評価（CGA） 高齢者のフィジカルアセスメント	講義	
12	24	高齢者のアセスメント	高齢者のコミュニケーションの援助 基本動作の援助 転倒・転落予防への援助	講義	
13	26	高齢者のくらしを支える援助	高齢者への排泄の援助 高齢者への清潔・整容の援助 高齢者への休息・睡眠の援助	講義	
14	28	高齢者のくらしを支える援助	高齢者への環境整備／高齢者への食事の援助 高齢者へのセクシュアリティを考慮した援助 社会参加を促す援助	講義	
15	30	高齢者のくらしを支える援助	食事介助 義歯の取り扱い	演習	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 老年看護学①老年看護学概論／老年保健 メヂカルフレンド社 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
<評価方法> 出席状況 授業態度 演習態度 課題への取り組み 提出物など（10点） 終講試験（90点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学Ⅱ		30	1	1年次	近内絵里 田辺 晃子（6）
＜学習目標＞ 1. 高齢者に発症しやすい症状を理解し、健康上の課題をもつ高齢者への看護を理解できる。 2. 高齢者に発症しやすい疾患と看護の特徴を理解できる。					実務経験：
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	高齢者特有の症状と看護	高齢者のめまいと看護／高齢者の脱水と看護 高齢者のかゆみと看護／高齢者の褥瘡と看護	講義	
2	4	高齢者特有の症状と看護	高齢者の熱中症と看護／高齢者の痛みと看護 高齢者の呼吸困難・息切れと看護	講義	
3	6	高齢者特有の症状と看護	高齢者の食欲不振・体重減少と看護 高齢者のフレイル、オーラルフレイル、ロコモ、サルコペニア、肥満と看護	講義	
4	8	高齢者特有の症状と看護	う蝕/歯周疾患患者の看護/オーラルフレイル （高齢者の口腔健康管理・義歯の管理・ブラッシングの方法）	講義	
5	10	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	※認知症の疾患については精神看護学でも学ぶ。
6	12	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	※認知症の看護については認知症ケア認定看護師講義のあり。
7	14	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	PP DVD
8	16	高齢者特有の疾患と看護	脳・神経疾患と看護 慢性閉塞性肺疾患・肺がん患者の看護	講義	
9	18	高齢者特有の疾患と看護	胃食道逆流症/大腸憩室症/虚血性大腸炎患者の看護 甲状腺疾患/脂質異常症/水・電解質異常患者の看護	講義	
10	20	高齢者特有の疾患と看護	腎不全/前立腺疾患患者の看護 大腿骨頸部骨折/変形性膝関節症/骨粗鬆症患者の看護	講義	
11	22	高齢者特有の疾患と看護	疥癬患者の看護 緑内障/加齢性黄斑変性/白内障	講義	
12	24	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際／食事指導について	演習	パンフレット作成
13	26	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際／食事指導について	演習	パンフレット作成
14	28	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際／食事指導について	演習	パンフレット作成
15	30	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際／食事指導について	発表	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞ 老年看護学①老年看護学概論／老年保健 メヂカルフレンド社 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞ 近内：80点 田辺先生：20点 出席状況 授業態度 演習態度 課題への取り組み 提出物など（10点） 終講試験（70点）					

科目名			時間数	単位	実施時期	講義担当者
小児看護学概論			15	1	1 年次	捧 美幸
＜学習目標＞						実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
1．小児各期の成長・発達の特徴を理解し、健康増進のための看護を学ぶことができる。 2．現代社会における小児とその家族を取り巻く環境を学び、看護の役割について考えることができる。						
＜授業計画＞						
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）	
1	2	小児看護の目的・役割	小児看護の課題・倫理（子どもの権利） 小児にかかわる統計	講義		
2	4	子どもを取り巻く環境・社会	子どもを取り巻く社会状況について考える	ディスカッション	事前に雑誌・記事を読み話題を準備	
3	6		児童福祉法 母子保健 予防接種 学校保健 未熟児養育医療 難病等	講義	事後にレポート提出（評価対象）	
4	8	乳児期にある小児の成長発達	成長発達の原則 身体的な成長発達の特徴	講義 成長発達 ワークシートへの記載	* 新生児の生理は母性看護学で学ぶ	
5	10	幼児期にある小児の成長発達	幼児期にある小児の成長発達と日常生活の世話 運動機能、感覚機能、知的機能・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 日常生活の自立と世話		* ワークシート（評価対象）	
6	12					
7	14	学童期にある小児の成長発達	学童期にある小児の成長の特徴 不適応行動・症状			
8	16	思春期にある小児の成長発達	思春期にある小児の成長の課題 身体生理の特徴 心理・社会的適応に関する問題			
9	18					
10	20					
11	22					
12	24					
13	26					
14	28					
15	30					
終講試験						
＜事前学習＞						
＜テキスト等の準備物品＞						
小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社						
＜評価方法＞						
終講試験 レポート ワークシート						

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
小児看護学Ⅰ		30	1	1 年次	菊池 信太郎(14) 捧 美幸(16)
＜学習目標＞					実務経験： ・医師として病院に勤務 ・看護師として病院に勤務経験あり
1. 小児の代表的疾患について、病態・治療が理解できる。 2. 健康問題や障害が小児とその家族に与える影響とその看護を理解することができる。 3. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	先天異常 代謝性疾患	ダウン症候群 クラインフェルター症候群 ターナー症候群 口唇口蓋裂 二分脊椎 水頭症 尿道下裂 先天代謝異常症（フェニルケトン尿症など） 糖尿病	講義	菊池 信太郎
2	4	皮膚疾患 感染症 アレルギー疾患	小児の皮膚の特徴 血管腫と母斑症 伝染性皮膚疾患細菌性感染症（結核 百日咳 伝染性膿疱） ウイルス感染症（麻疹 風疹 水痘／帯状疱疹 ロタ流行性耳下腺炎 アデノ エンテロ RS ノロ HSV 突発性発疹 伝染性単核球症 先天性サイトメガロ 気管支炎 アトピー	講義	
3	6			講義	
4	8	呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 腎泌尿器疾患	急性上気道炎 クルーブ 肺炎 乳幼児突然死症候群 胎児循環・新生児循環 先天性心疾患（心室中隔欠損症 動脈開存症 ファロー四徴症など） 後天性心疾患（川崎病など） ヒルシュスプリング病 腸重積 乳児下痢症 胆道閉鎖症 肥厚性幽門狭窄症 鎖肛	講義	
5	10			講義	
6	12	腎泌尿器疾患 運動器疾患 神経・筋疾患 血液疾患 神経発達症群	ネフローゼ症候群 ウイルス髄膜炎など 運動器疾患（先天性疾患 小児の骨折） てんかん 脳性麻痺 筋ジストロフィー 脳炎・脳症 小児がん 白血病など 自閉症スペクトラム障害 ADHD	講義	
7	14			講義	
8	16	健康問題・障害のある小児の看護	小児の病気の理解と説明 病気や診療・入院が小児に与える影響 小児の病気がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護支援 倫理的課題 ストレスコーピング	講義 ディスカッション	捧 美幸
9	18	小児にみられる主な症状と看護①	啼泣、発熱、嘔吐、下痢、脱水時の看護 小児の身体的・生理的特徴と疾患との関連性 アセスメントの視点	講義 ディスカッション	
10	20	小児にみられる主な症状と看護②	呼吸困難、チアノーゼ、痛み、痙攣、発疹時の看護 小児の身体的・生理的特徴と疾患との関連性 アセスメントの視点	講義	
11	22	急性期・慢性期にある小児の看護	急性期にある小児とその家族への看護 慢性期にある小児とその家族への看護 小児慢性特定疾病	講義	
12	24	様々な状況にある小児の看護	活動制限が必要な小児とその家族への看護 心身障害のある小児とその家族への看護	講義	
13	26		長期的経過をたどる疾患をもつ小児とその家族の看護 在宅／地域で医療的ケアが必要な小児とその家族の看護 レスパイト、ドナルド・マクドナルドハウス	講義 DVD	
14	28	特殊な状況下にある小児の看護	虐待を受けている小児とその家族への看護 （児童虐待防止法） 災害を受けた小児とその家族への看護	講義 DVD	
15	30		クリティカルな状況にある小児とその家族への看護 救急処置が必要な小児とその家族への看護	演習 DVD	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞ 小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞ 筆記試験 （疾患について50点 看護について50点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
小児看護学Ⅱ		30	1	1 年次	捧 美幸
＜学習目標＞					実務経験：看護師として 病院に勤務経験あり
1. 検査・治療・処置が必要な小児に対し、発達段階を考慮し、尊厳を踏まえた援助を理解することができる。 2. 健康問題・障害を持つ小児とその家族に対し、紙上事例を用いて看護過程を展開することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	ヘルスアセスメント の手法	身体測定、バイタルサイン測定	講義	
2	4			演習	
3	6		フィジカルアセスメント （全身状態、系統別、神経系のアセスメント）	講義	
4	8	検査や処置 の手法と看護	採血・採尿・骨髄穿刺・与薬・注射・輸液療法・吸引・ 酸素療法の援助	講義	
5	10	意思決定のための 心理的支援	プレパレーションの方法	グループワーク	
6	12		小児各期にある小児へのプレパレーション	演習	
7	14	看護過程の事例展開	健康問題のある小児の事例展開 （情報の整理・分類）	個人ワーク	
8	16		健康問題のある小児の事例展開 （アセスメント）	個人ワーク	
9	18				
10	20		健康問題のある小児の事例展開 （関連図を作成し、看護問題を抽出する）	グループワーク	
11	22				
12	24		健康問題のある小児の事例展開 （関連図をもとに発表）	グループワーク （発表）	
13	26	心身障害のある小児 と家族への看護	心身障害のある小児と家族の理解 （重症心身障害児、医療的ケア児、発達障害児）	講義	
14	28		重症心身障害児にみられる合併症	講義	
15	30		看護過程展開	講義	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社					
＜評価方法＞					
看護過程の展開状況 演習状況 レポート					

科目名						時間数	単位	実施時期	講義担当者
母性看護学概論						15	1	1年次	榊原 信子
<学習目標>								実務経験：看護師として病院に勤務経験あり	
1. 母性看護の基礎となる概念と看護の対象である家族を理解し、母性看護の役割や目的を学ぶことができる 2. 母子保健の動向と施策を理解できる 3. ライフサイクル各期における特徴とリプロダクティブヘルスケアを理解することができる									
<授業計画>									
回数	時間	学習内容				方法	備考（教材等）		
1	2	母性とは 父性とは 母性看護とは 母子と家族の発達 看護の場の特徴		母性、父性、親性の違い 母性看護の概念 母性看護に関わる職種と役割 母性看護の場と特徴		講義	DVD 視聴後レポート		
2	4	母性看護における主要な理論と看護		セクシュアリティ ウィメンズヘルス リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスパromーション		講義			
3	6	母性看護の歴史と母子保健		母子保健統計 母子保健に関わる法律 主な保健施策 母子保健施策の展望と課題		講義	事前課題あり		
4	8	ライフサイクル各期における成長発達と看護		ライフサイクル各期の身体・心理・社会的成長・発達 ライフサイクル各期のヘルスパromーション ライフサイクル各期の健康問題と看護		グループワーク	ワークシート		
5	10					グループワーク	ワークシート		
6	12					グループワーク(発表)	ワークシート		
7	14	女性生殖器の構造と機能		母性の身体的特徴 女性生殖器の構造と機能 性周期とホルモン		講義	事前課題あり		
終講試験									
<事前学習> ワークシートあり									
<テキスト等の準備物品> 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社）									
<評価方法> 事前ワークシート10点 グループワーク（参加態度・内容）20点 終講試験70点									

科目名		時間数	単位	実施時期	担当教員
母性看護学 I		30	1	1年次	榊原 信子 和泉 直美
<学習目標> 1. 妊娠期・分娩期、産褥期の正常な経過・異常な経過とその看護を学ぶことができる。 2. 新生児期の生理的变化とその看護を学ぶことができる。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習項目	学習内容	方法	備考
1	2	妊娠期における母子の看護①	妊娠の成立 母体の変化と胎児の発育 (胎盤ホルモン 付属物 胎児の位置)	講義	榊原信子
2	4	妊娠期における母子の看護②	健康診査(腹囲 子宮底測定 超音波 NST) 妊娠各期の起こりやすい異常と保健指導	講義	
3	6	妊娠期における母子の看護③	社会資源の活用 妊娠と薬剤・感染 健康問題をもつ母子の看護(出生前診断)	講義	
4	8	分娩期における母子の看護①	分娩の定義・分類 分娩の3要素 分娩の前兆 分娩の経過と所要時間 陣痛の評価	講義	
5	10	分娩期における母子の看護②	分娩各期の看護	講義	
6	12	産褥期における母子の看護①	産褥の生理 産褥早期の正常な経過	講義	
7	14	産褥期における母子の看護②	退行性変化 進行性変化 心理社会的変化 母乳育児	講義	
8	16	産褥期における母子の看護③	産褥の異常と回復を促す援助(子宮復古不全 産褥感染症 排泄障害 乳房トラブル)	講義	
9	18	新生児の看護①	新生児の特徴 (呼吸 循環 体温 消化器 感染症)	講義	
10	20	新生児の看護②	新生児の観察と判断 (黄疸 体重減少 帝王切開)	講義	↓
11	22	妊娠期における母子の異常と看護①	・ハイリスク妊娠と看護 妊娠の異常(妊娠悪阻 子宮外妊娠 胎状奇胎妊娠 妊娠高血圧症候群 早産) ・合併妊娠(糖尿病 妊娠貧血 高血圧 マタニティブルーズ)	講義	和泉 直美
12	24	妊娠期における母子の異常と看護②	・母子感染症 ・妊娠期の健康問題と看護 ・胎児心拍数モニタリング	講義	
13	26	分娩期における母子の異常と看護①	・分娩経過における異常とその看護 ・胎児及び胎児付属物の異常とその看護 ・分娩時異常出血、産科ショックとその看護 (弛緩出血 羊水塞栓症 肺血栓塞栓症)	講義	
14	28	分娩期における母子の異常と看護②	・産科処置とそれに伴う看護(陣痛誘発 帝王切開)	講義	
15	30	産褥期における母子の異常と看護①	・産褥期における異常と看護(子宮復古不全 感染症 乳房・乳頭トラブル 産後うつ) ・新生児期にみられる異常と看護(呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群 一過性多呼吸 底出生体重児)	講義	↓
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト> 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社) 参考図書: 病気がみえるVOL. 10 産科<4版>					
<評価の方法> 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
母性看護学Ⅱ		30	1	1年次	榊原 信子 和泉 直美
＜学習目標＞				実務経験：看護師として 病院に勤務経験あり	
1. 母性看護について考察し、生命観を深めることができる 2. 産褥期にある母子とその家族に対してウェルネス視点で看護過程を展開することができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	母性看護に関わる倫理①	「出生前診断」における倫理について考え、グループで議論し発表する。	講義	DVD ワークシート
2	4	母性看護に関わる倫理②		GW	ワークシート
3	6	母性看護技術①	対象の状態を正確に知るための看護技術 ・新生児の観察・バイタルサイン測定 ・新生児の援助（抱き方 更衣 オムツ交換） ・哺乳瓶授乳 沐浴 ・子宮底長測定 子宮底の高さ 腹囲測定	講義	事前学習課題 DVD ワークシート
4	8	母性看護技術②		演習	
5	10	母性看護技術③		演習	
6	12	母性看護技術④		演習	
7	14	看護過程の展開①	ウェルネス視点 母性看護過程	講義	
8	16	看護過程の展開②	紙上事例による看護過程の展開 正常な産褥経過をたどる初産婦の分娩当日から産褥1日目について看護過程を展開する。 1. 事例の情報分類・整理（個人ワーク） 2. 情報のアセスメント（個人ワーク）	演習	
9	18	看護過程の展開③			
10	20	看護過程の展開④	3. 全体像の把握（グループワーク） 各自が完成させたアセスメントを元にグループで1つの関連図を完成させる。 4. 看護目標の設定 計画立（グループワーク） 5・グループごとに発表する。 関連図と看護計画を発表する。	GW	ホワイトボード ワークシート
11	22	看護過程の展開⑤			
12	24	看護過程の展開⑥			
13	26	看護過程の展開⑦			
14	28	看護過程の展開⑧		GW （発表）	
15	30	母性看護の場「地域」	母性看護は医療場面だけではなく、地域生活の中にも存在する。地域における母子の健康支援の実際と方法を学ぶ。	講義	和泉 直美
終講試験					
＜事前学習＞					
母性看護技術ワークシート					
＜テキスト等の準備物品＞					
母性看護学①母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社） 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社） 母性看護技術（メディカ出版）					
＜評価方法＞					
提出物の期限・演習の参加態度・グループワーク参加態度（各10点） 成果物の内容20点 終講試験50点					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
精神看護学概論		15	1	1 年次	大槻 ゆう子
<学習目標> 1. ライフサイクルにおける心の発達と健康について理解することができる。 2. 社会の変化に伴う精神保健医療の現状と課題を知り、看護の役割を考えることができる。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	精神看護の基本概念	精神看護学の基本的な考え方 日本の精神医療の現状 リエゾン精神看護の役割	講義	PP 資料
2	4	精神の健康と障害	精神・健康の基準 ICF ICD-10 精神障害のとらえ方 精神保健の考え方	講義	PP 資料、公衆衛生
3	6	人間のこころの諸活動	人間のこころの働き	講義	PP 資料
4	8	心のしくみと人格の発達	自我の構造 自我の発達段階	講義	PP 資料
5	10	成長発達理論	エリクソンの発達理論 対象関係論 愛着理論	講義	人間関係論
6	12	危機介入とストレスコーピング	危機とは 危機の種類と介入 ストレスコーピング カプランの予防の概念	講義	PP 資料
7	14	成長発達理論	エリクソンの発達理論 対象関係論 愛着理論	講義	看護心理学、人間関係論、母性看護学概論
8	16	家族の多様性と看護	家族の役割関係 家族のセルフケア機能 家族療法について	講義	人間関係論
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> 看護心理学、人間関係論、母性看護学概論で学習した発達理論等の復習					
<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座 精神看護の基礎① 医学書院統, 看護学講座 精神看護の展開② 医学書院, 精神看護の過程 サイオ出版					
<評価方法> 終講試験、出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
精神看護学 I		30	1	1 年次	河野創一(16) 大槻ゆう子(14)
<学習目標> 1. 主な疾患の症状と治療を理解することができる。 2. 精神看護におけるセルフケア不足理論の活用方法がわかる。					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	精神疾患と治療	精神疾患とは（事例による説明）、薬について（代表的な抗精神薬）、家族 など	講義	河野創一
2	4	〃	統合失調症の症状・障害、うつ病、抗うつ薬の作用・副作用	講義	
3	6	〃	認知症の特徴・症状、記憶の分類、認知症の分	講義	
4	8	〃	統合失調症患者の治療と看護	講義	
5	10	〃	躁うつ病患者の治療と看護	講義	
6	12	〃	神経症、パーソナリティ障害、摂食障害の患者の治療と看護	講義	
7	14	〃	嗜癖・依存のある患者の治療と看護	講義	
8	16	災害と心のケア	被災者とコミュニティの回復プロセス ストレス反応への対応	講義	看護心理学、災害看護でも学ぶ
9	18	精神疾患と看護	統合失調症の症状、患者・家族の苦しみ、精神障害者の「生きにくさ」	講義	大槻ゆう子
10	20	〃	〃	講義	
11	22	セルフケア理論	オレム-アンダーウッドモデル 自己決定能力、精神状態のアセスメント	講義	
12	24	セルフケア不足の理論	普遍的セルフケア、セルフケアのアセスメント	講義	
13	26	〃	セルフケアレベル、セルフケア要素 基本的条件付け	講義	
14	28	精神障害者とのコミュニケーション	ケアの人間関係、患者-看護師関係 ペプロウ	講義 演習	看護心理学、人間関係論でも学ぶ
15	30	自己理解・対象理解	関係のアセスメント プロセスレコード	演習	看護心理学、人間関係論でも学ぶ
終講試験					
<事前学習> 既修領域の各理論の復習					
<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座 精神看護の基礎① 医学書院統、看護学講座 精神看護の展開② 医学書院、 精神看護の看護過程 サイオ出版					
<評価方法> 終講試験、演習課題、プロセスレコード作成、出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
精神看護学Ⅱ		30	1	2年次	大槻 ゆう子
＜学習目標＞ 1. 対象が社会資源の活用により、地域での生活を可能にするための援助方法を理解することができる。 2. 精神疾患を持つ対象に対し、看護過程を展開することができる。					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	対象への自立支援と生活の拡大	社会復帰・地域生活継続にむけた取り組みと看護	講義	地域・在宅看護論でも学ぶ
2	4	〃	保健福祉医療の連携の実際	講義	PP資料
3	6	〃	精神科リハビリテーション、リカバリー、エンパワメント	講義	地域・在宅看護論でも学ぶ
4	8	行動療法における看護	SSTの目的・具体的方法、認知行動療法	講義・演習	PP資料
5	10	精神科における身体ケア、治療に伴う身体ケア	精神科におけるフィジカルアセスメントの難しさ、経過別身体ケア、薬物療法を受ける患者の看護、身体合併症のアセスメントとケア、終末期ケア	講義	PP資料
6	12	事例による看護過程の展開	精神科訪問看護における統合失調症患者の事例展開	演習	個人ワーク
7	14	〃	〃	演習	GW
8	16	事例による看護過程の展開	入院中の統合失調症患者の事例展開（データベース、精神状態、セルフケア能力のアセスメント）	演習	個人ワーク
9	18	〃	〃	演習	個人ワーク
10	20	〃	事例展開（関連図作成）	演習	GW
11	22	〃	事例展開（看護問題抽出）	演習	GW
12	24	〃	事例展開（看護計画立案）	演習	GW
13	26	〃	〃	演習	GW
14	28	〃	事例展開（グループワーク内容発表）	演習	GW
15	30	〃	事例展開（発表内容の振り返り）	演習	GW
終講試験					
＜事前学習＞ 既修領域の看護過程の展開・在宅看護概論の地域包括ケアシステム等の復習					
＜テキスト等の準備物品＞ 系統看護学講座 精神看護の基礎① 医学書院統、看護学講座 精神看護の展開② 医学書院、精神看護の看護過程 サイオ					
＜評価方法＞ 終講試験、看護過程の展開レポート、GW発表、出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
周術期と看護		15	1	1 年次	濱尾ゆかり 佐藤 謙成
＜学習目標＞		成：6 時間 老：3 時間 小児：3 時間 母性：3 時間			
1. 手術療法について知り、手術侵襲と生体反応について理解できる。 2. 周術期看護の特徴を理解できる。 3. 術前・術中・術後の患者・家族の看護が理解できる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	手術療法と生体反応の基本	手術療法の目的と種類 手術に伴う生体反応からの回復	講義	佐藤 謙成
		周術期看護の特徴	周術期にある患者・家族の特徴 周術期における多職種連携と看護師の役割 術後の患者の生活の再構築に向けての支援		
2	4	周術期における理論の活用 術前の患者・家族の看護	ロイ適応看護理論/セルフケア不足看護理論 自己効力感/エンパワメント 患者・家族の看護/手術に向けた準備	講義	
3	6	術中の患者・家族の看護 （成人期 老年期）	手術室の環境/手術室看護師の役割/麻酔 手術室入室から執刀開始までの援助/麻酔維持期の援助 麻酔終了から手術室退室までの看護 手術室における医療安全	講義	濱尾 ゆかり
4	8	術後の患者・家族の看護 （成人期 老年期）	情報収集とアセスメント/看護問題/患者家族へのケア 機能低下の早期回復と術後合併症対策 （呼吸機能/体液・循環機能/摂食・嚥下機能/ 消化吸収機能/排便機能） 高齢者の術後の特徴	講義	佐藤 謙成
5	10	術後の患者・家族の看護 （成人期 老年期）	機能低下の早期回復と術後合併症対策 （代謝機能/運動機能/脳神経・感覚機能/性・生殖機能） 疼痛対策/感染対策/ドレーン管理	講義	
6	12	周術期における 小児と家族の看護	周術期にある小児と家族の体験 手術が小児に与える影響 手術器の小児と家族の看護 ・ 術前準備（プリパレーション） 安全・安楽への援助	講義	
7	14			講義	
8	16	分娩期の健康問題への看護	産科処置・産科手術 帝王切開（腰椎麻酔について）	講義	濱尾 ゆかり
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
経過別成人看護学② 周術期看護 マタニティーサイクルにおける母子の健康と看護 （メヂカルフレンド社） 健康障害をもつ小児の看護（メヂカルフレンド社）					
＜評価方法＞					
出席状況、授業態度、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
終末期と看護		30	1	1 年次	坪井病院看護師（26） 教員（4）
＜学習目標＞		成人期：12時間 老年期：12時間			
1. 終末期にある対象とその家族の特徴を知り、全人的苦痛の緩和について理解できる。 2. 終末期にある対象の療養の場の違いによる看護の特徴を理解できる。 3. 終末期医療における倫理的課題を考えることができる。					
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	終末期の理解 終末期医療と看護の理解	死の理解 終末期と終末期医療の理解 終末期医療における看護の機能・役割 終末期医療における多職種連携と看護の役割	講義	
2	4	終末期にある患者・ 家族の理解	成人期における終末期の特徴 老年期における終末期の特徴	講義	教員
3	6		小児期における終末期の特徴 （在宅における医療的ケア児と家族）	講演	
4	8			講演	
5	10	終末期医療の抱える問題 死の受容	終末期医療における倫理的課題 子どもと家族の死のとりえ方	講義	
6	12	死の受容	成人期における死のとりえ方 高齢者の死のとりえ方	講義	
7	14	終末期における患者・ 家族との コミュニケーション	患者・家族とのコミュニケーション 患者の希望を支えるコミュニケーション アドバンス・ケア・プランニング	講義	
8	16	終末期における 日常生活の支援	整容・清潔の援助/口腔ケア 移動・移乗の援助/体位変換/食事の援助排泄の援助 睡眠の援助/環境の調整	講義	
9	18	全人的苦痛の緩和	緩和ケアとは/緩和ケアにおける看護の役割 身体的ケア（疼痛・倦怠感・食欲不振・呼吸困難・悪心・嘔吐）	講義	
10	20	全人的苦痛の緩和	身体的ケア （腹部膨満感・腸閉塞・便秘・下痢・浮腫）	講義	
11	22	全人的苦痛の緩和	精神的ケア/社会的ケア	講義	
12	24	終末期における 退院支援・地域連携	スピリチュアルケア/認知症の人へのケア 家族への緩和ケア 終末期の退院支援・退院調整における看護の実際	講義	
13	26	臨死期の看護 在宅における看取り	臨死期の理解/臨死期における看護の役割 リビングメントケア/グリーフケア/ 在宅での看取りにおける看護の役割	講義	
14	28	看護過程	看護過程の展開 （終末期にある小児の事例演習）	演習	
15	30	看護過程	看護過程の展開（事例演習）	演習	
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
経過別成人看護学④ 終末期看護 エンド・オブ・ライフ・ケア（メヂカルフレンド社） 健康障害をもつ小児の看護（メヂカルフレンド社）					
＜評価方法＞					
出席状況、授業態度、課題への取り組み、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護管理		15	1	2 年次	永山 義弘
<学習目標> 1. 看護管理が、看護実践を行う全ての看護師に必要な概念であることを理解する。 2. 看護管理に含まれる要素と、そのマネジメントについて理解する。 3. 看護をとりまく諸制度とその関係について理解する。 <授業計画>					実務経験：病院に看護師として勤務経験あり
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	看護とマネジメント 看護管理とは 看護管理の歴史と諸理論	講義	テキスト 配布資料	
2	4	看護ケアのマネジメント ケアプロセスの理解 チーム医療と他部署との連携 日常業務のマネジメント 看護業務基準	講義	テキスト 配布資料	
3	6	キャリアマネジメント キャリアラダーとキャリア開発 ストレスマネジメント	講義	テキスト 配布資料	
4	8	看護サービスマネジメント 看護の組織化 サービス提供体制と人材マネジメント 診療報酬および看護必要度評価について	講義	テキスト 配布資料	
5	10	看護サービスマネジメント 看護の質評価 施設設備・情報管理・災害への備え	講義	テキスト 配布資料	
6	12	マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップとマネジメント 組織変革	講義	テキスト 配布資料	
7	14	看護を取り巻く諸制度 看護と法 看護職と倫理等	講義	テキスト 配布資料	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 : 医学書院					
<評価方法>					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
医療安全		15	1	2 年次	桑名 静 渡部 裕子
＜学習目標＞ 1. 医療安全の基礎知識と基本的心構えについて理解する。 2. 看護実践における医療安全の考え方について理解する。 3. 組織的な安全管理体制への取り組みについて理解する。					実務経験：
＜授業計画＞					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	医療安全の基本的考え方 ・医療安全の意味と重要性 ・医療事故、医療過誤の現状	講義		
2	4	医療安全と法・制度の現状 ・医療法、診療報酬との関連 ・医療事故報告制度の概要、医療の質評価	講義		
3	6	医療安全とリスクマネジメント ・事故発生のメカニズム	講義		
4	8	医療安全文化の取り組み ・危険予知トレーニング(KYT)	状況設定による演習		
5	10	医療安全とコミュニケーション ・事故発生防止のためのコミュニケーション ・多重課題、タイムプレッシャー、業務中断	講義		
6	12	看護業務に関連する事故と安全対策 ・与薬、誤薬、針刺し、転倒転落、チューブ類、検査、処置時のトラブル	講義		
7	14	看護学生の実習と安全 ・実習中の事故予防と発生時の対応	講義		
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
＜事前学習＞					
＜テキスト等の準備物品＞					
統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 : 医学書院					
＜評価方法＞					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
災害看護/国際看護		20	1	2年	松本 昌彦 山田 智恵里
<学習目標> 1. 災害と災害看護の基礎的知識を理解し、災害時の対応がわかる 2. 諸外国の保健・医療・福祉の現状および看護の実践がわかる					実務経験：
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	災害概論災害 看護の基本	講義	P P	松本昌彦
2	4	災害医療について	講義	P P	
3	6	トリアージについて	講義	P P	
4	8	トリアージ演習	演習	トリアージタッグ	
5	10	活動の場に合わせた看護	講義	P P	↓
6	12	国際看護とは、主要概念 国際看護活動分野 看護師国家出題基準 グループワークについて	講義	山田智恵理	
7	14	世界の健康課題 国際協力機関 SDG s	講義		
8	16	グループワーク：情報処理室にて 報告書様式は電子ファイルにて配布	GW 演習 レポート		
9	18	国際看護協力活動事例（フィジー） 看護師国家試験過去問	講義		
10	20	国際医療の現場で起こっていること DVD視聴	講義	DVD 課題レポート（教員）	
11					
12					
13					
14					
15					
終講試験					
<事前学習> YouTubeで「青年海外協力隊の実際の活動」を視聴し、「国際看護の役割と重要性」をレポートにまとめ 提出する。					
<テキスト等の準備物品> 看護の統合と実践③災害看護・国際看護（医学書院） 国際看護（南光堂）					
<評価方法> 災害看護50点 国際看護50点（外部講師40点 教員10点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
臨床看護実践論		30	1	2 年次	多々良 さつき
<学習目標> 1. 複数患者の看護を安全安楽を考慮し、タイムマネジメントすることができる。 2. 多重課題・時間切迫の状況下で、基本的な看護技術を安全に実施することができる。 3. 看護における多重課題の危険性を理解し、多重課題発生時の対処の原則に則り優先順位を選択できる。 4. 看護におけるチームワーク構築の必要性和コミュニケーションの方法、重要性を学ぶことができる。 <授業計画>					実務経験：看護師として病院に勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	多重課題への対処	1) 日常生活の中での多重課題 2) 多重課題に対処するには (業務時間管理 タイムスケジュール 優先順位決定)	講義	PP
2	4		1) 多重課題遂行時の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 (優先順位の判断基準・安全な業務の遂行)	講義	DVD PP
3	6	複数患者を受け持つために	1) 複数受け持ち患者の看護 基礎データ把握と分析 (現病歴・病態生理学・検査処置治療・看護援助)	個人演習	ペーパーシミュレーション
4	8		2) 患者のニーズの把握と予測行動 3) タイムスケジュールをたてる		
5	10	看護師のチームワーク	1) チームワークとコミュニケーション 2) 医療安全とコミュニケーション	講義	
6	12	多重課題への対処の実際	1) タイムスケジュールをたてる（清拭・検温場面） ①優先順位決定とその根拠 ②安全に業務を遂行する上で必要なこと 留意点 ③業務の所要時間 ④エラー防止対策 忘れ対策 2) 突発的に起こる多重課題への対処の方法の実際 3) 複数患者への対応 ・情報の共有と協力体制 ・複数患者への基本的態度（言葉遣い・態度） ・複数患者へのコミュニケーション技術 4) 多重課題実践発表の準備 ・多重課題を安全・安楽に実施するための看護技術の原理原則の確認	個人・GW	臨床の事象を用いてスケジュールの作成、優先順位の決定、実技の実践
7	14				
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24	多重課題への対処の実践	緊急性や重要性を見極め、優先順位の決定、対応を判断し、他者へ協力を適切に行い、結果的には行うべき業務を遂行できる事が目的である <実技演習の目標> ①複数患者を受け持ち、多重課題・時間切迫の状況下で安全に配慮した優先順位を選択できる ②自分の力量の判断、他社への協力（連絡報告）の依頼を適切に行うことができる ③多重課題・時間切迫の状況下で基本的な看護技術を安全に実施できる ④チームで突発事象に対処することができる	実技演習・リフレクション	臨床の事象を用いて場面設定し、多重課題の遂行、突発事象への対処を実践する
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 看護の統合と実践 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社					
<評価方法> 筆記試験 60点 課題：40点（情報整理用紙・タイムスケジュール等）					